

**平安京左京六条三坊十六町跡
烏丸綾小路遺跡発掘調査報告書**

2 0 2 0

株式会社 文化財サービス

例 言

- 1 本書は、京都市下京区烏丸通松原下る五条烏丸町 404 番 2、不明門通り松原下る吉水町 449 番 3、松原通烏丸東入南側俊成町 439 番 1・441 番で実施した、平安京左京六条三坊十六町跡・烏丸綾小路遺跡の発掘調査報告書である。(京都市番号 19H525)
- 2 調査は、開発事業者より、株式会社文化財サービス（以下、「文化財サービス」という）に委託され実施した。現地調査は菅田 薫が担当した。
- 3 調査期間は、令和 2 年 8 月 17 日～令和 2 年 10 月 9 日である。
- 4 調査面積は、180 m²である。
- 5 図 1 で使用した地図は京都市発行の都市計画基本図（縮尺 1:2500）「五条大橋」・「三条大橋」・「烏丸」・「壬生」を調整して作成した。
- 6 本文・図中の方位・座標は世界測地系による。標高は、T.P.（東京湾平均海面高度）である。
- 7 土層名及び出土遺物の色調は、農林水産省水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 8 本書の執筆は菅田が行い、編集は野地ますみ（文化財サービス）が行った。
- 9 遺跡の写真撮影は菅田が行った。出土遺物の撮影は写房楠華堂に依頼した。
- 10 調査に係る資料は、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課が保管している。
- 11 発掘調査及び整理作業の参加者は、下記の通りである。

〔発掘調査〕 上田智也 小林一浩 田中慎一 中 優作 吉岡創平（以上、文化財サービス）
作業員（株式会社京カンリ）

〔整理作業〕 赤羽 香 内牧明彦 神野いくみ 甲田春奈 多賀摩耶 場勝由紀菜 溝川珠樹
望月麻佑 森下直子 吉川絵里 若山美帆（以上、文化財サービス）
- 12 出土遺物の年代観は、平尾政幸「土師器再考」『洛史 研究紀要』第 12 号 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2019 年に依った。
- 13 現地調査・整理作業において、下記の方々にご教示をいただいた。記して感謝いたします。

國下多美樹（龍谷大学）、浜中邦弘（同志社大学）、平尾政幸（関西文化財調査会）

目次

第Ⅰ章 調査の経緯

1 調査に至る経緯	1
2 調査の経過	1
3 測量基準点の設置と地区割り	2
4 整理作業・報告書作成	2

第Ⅱ章 位置と環境

1 位置と環境	5
2 既往の調査	5

第Ⅲ章 調査成果

1 基本層序	9
2 検出遺構	9
(1) 第3面B	9
(2) 第3面A	12
(3) 第2面	13
(4) 第1面	21
3 出土遺物	22

第Ⅳ章 まとめ

1 遺構の変遷	30
2 東洞院御所について	31
3 堀77について	31

図版目次

図版 1	遺物	遺物実測図 1
図版 2	遺物	遺物実測図 2
図版 3	遺物	遺物実測図 3
図版 4	遺物	遺物実測図 4
図版 5	遺物	遺物実測図 5
図版 6	遺物	遺物実測図 6
図版 7	遺物	遺物実測図 7
図版 8	遺構	1. 1面全景 (南から) 2. 1面空中写真 (上が東)

図版 9	遺構	1. 2面全景（南から）	2. 2面空中写真（上が東）
図版 10	遺構	1. 井戸19（北から）	2. 井戸19断面（北から）
図版 11	遺構	1. 溝33（東から）	2. 土坑36（北から）
図版 12	遺構	1. 3面全景空中写真（上が東）	2. 堀77（東から）
図版 13	遺構	1. 溝66（西から）	2. 溝88（北から）
図版 14	遺構	1. 3面B全景（南から）	2. 調査地上空から因幡堂（上が北）
図版 15	出土遺物	1. 溝88	2. 溝66
図版 16	出土遺物	1. 溝66	2. 溝66
		3. 溝66	4. 土坑34
		5. 土坑34	6. 土坑34
		7. 土坑34	
図版 17	出土遺物	1. 土坑67	2. 溝77
図版 18	出土遺物	1. 土坑36	2. 溝33
図版 19	出土遺物	1. 土坑40	2. 土坑5
図版 20	出土遺物	1. 土坑53	2. 3面掘下げ
		3. 土坑38（220～222）、2面掘下げ（223）	

挿図目次

図 1	調査位置図（1：2,500）	1
図 2	調査経過写真	3
図 3	調査区地区割図（1：300）	4
図 4	既往調査位置図（1：5,000）	6
図 5	調査区断面図（1：100）	10
図 6	3面B平面図（1：100）	11
図 7	溝88・66・33、堀77、土坑51・35・3断面図（1：50）	12
図 8	溝88平面図（1：50）	13
図 9	3面A平面図（1：100）	14
図 10	堀77、土坑67平面図（1：50）	15
図 11	溝66・33平面図（1：50）	16
図 12	2面平面図（1：100）	17
図 13	土坑32・34・38・8・36・40平面・断面図（1：40）	18
図 14	井戸19平面・立面・断面図（1：40）	19
図 15	1面平面図（1：100）	20
図 16	土坑5・6平面・断面図（1：40）	21
図 17	古墳時代の土器（1：4）	22

表目次

表 1	既往調査一覧	7
表 2	遺構概要表	9
表 3	遺物概要表	22
表 4	遺物計測表	33

第 I 章 調査の経緯

1 調査に至る経緯

京都府京都市下京区烏丸通松原下五條烏丸町 404 番 2 その他 3 筆において、宿泊施設の建設が計画された。建設予定地は平安京左京六条三坊十六町跡および烏丸綾小路遺跡の範囲内にあたり、また敷地北側は五條大路南築地に推定される。そのため建設工事に先立ち、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下、「文化財保護課」という）による試掘調査が実施された。その結果、敷地北側において遺構および遺物の存在が確認され、発掘調査を実施することとなった。調査は、モントリオール特定目的会社から株式会社文化財サービスに委託された。

2 調査の経過

発掘調査は 2020 年 8 月 17 日から現地作業に着手し、10 月 9 日にて全ての工程を完了した。調査区は、当初、文化財保護課により南北 18.0m、北側で東西 10.0 m、南側では東西 14.0 m の東側に突出した L 字型を呈する面積 208 m²が指導された。しかし、東側に存在した旧建物のコンクリート基礎が深くまた隣接する家屋に接して基礎が造られていることが判明し、文化財保護課の検査を受けたのち、その部分を除き、調査面積は東西 10m、南北 18m の 180 m²となった。

調査は、近現代整地土および近世整地土を重機掘削によって除去し、その後、人力によって第 1 面の精査および遺構検出を行った。その結果、漆喰の井戸、土坑数基を検出した。埋土に包含されていた遺物から、井戸は幕末から現代にいたる時期であり、土坑などは、江戸時代に属する

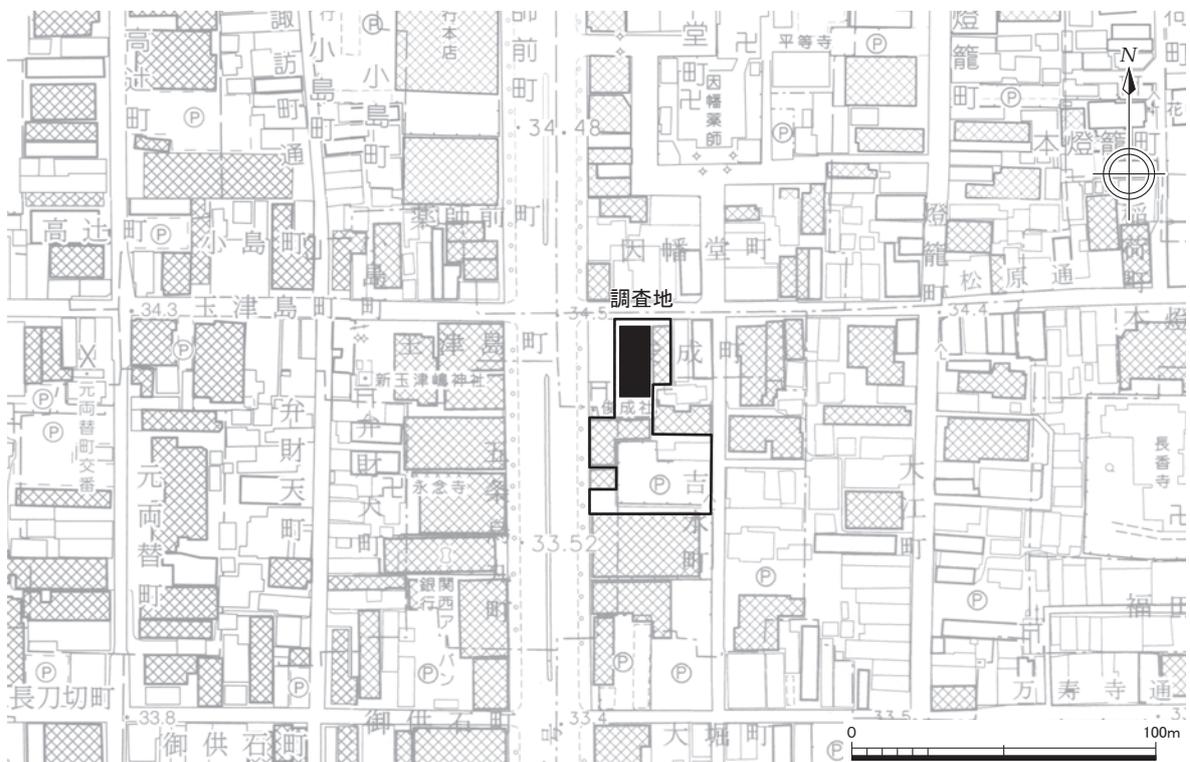


図 1 調査位置図 (1 : 2,500)

ものと考えられた。また、中世以前の遺構は検出されなかった。これらの遺構を人力にて掘削後、記録作業を実施した。次に、人力によって第1面の遺構ベース層を掘削・除去し、第2面の精査、遺構検出を行い、溝・井戸・土坑状の遺構を数基検出した。これらを人力にて掘削後、記録作業を実施した。これらの遺構の時期は出土遺物から室町時代に属するものであった。その後、第2面の遺構ベース層を掘削、除去し、第3面の精査、遺構検出を行い溝・土坑などを検出した。この面で平安時代、室町時代の遺構を同時に検出した。試掘調査の結果からは遺構面は3面であったが、調査区南側で包含層がわずかに堆積した個所があり最終地山面での遺構検出を行い、写真撮影および図面作成による記録作業を行った。

記録作業が完了した後、埋め戻しを行い、資機材を撤収して現地作業を終了した。

写真撮影機材は、35 mmフルサイズの一眼レフデジタルカメラ、35 mm白黒フィルムおよびカラーリバーサルフィルムを使用し、図面作成には手測りによる実測、トータルステーションによる図化、写真測量を併用した。

現地調査においては、適宜、文化財保護課の検査および指導を受けた。また、遺構掘削段階において、本調査の検証委員である龍谷大学教授國下多美樹氏、同志社大学歴史資料館准教授浜中邦弘氏の現地視察・検証を受け、調査に対する助言を頂いた。

3 測量基準点の設置と地区割り (図3)

測量基準点は、VRS測量により調査地敷地内にS. 1、S. 2を設置し、その2点からトータルステーションによりS. 3を設置した。基準点測量の成果は以下の通りである。

S. 1	X = -111041.213 m	Y = -21900.889 m	H = 34.228 m
S. 2	X = -111085.701 m	Y = -21881.907 m	H = 33.725 m
S. 3	X = -111061.490 m	Y = -21910.653 m	H = 34.835 m

検出遺構および出土遺物の管理のため、調査区に対して3 m四方のグリッドを設定した。地区名は、グリッドの北西角を基準として、座標数値の下3桁で呼称した。井戸19はX 054 Y 909グリッドとして遺物取り上げなどを行なった。

4 整理作業・報告書作成

現地調査終了後、整理作業および報告書作成を行った。整理作業は写真、図面の整理と出土遺物の整理を並行して実施した。遺物の整理は洗浄、接合、実測、トレース、復元、写真撮影を行った。報告書の執筆は調査を担当した菅田 薫、編集作業は野地ますみが担当し、その他整理作業は当社社員が分担して行った。



1. 調査前（南から）



2. 重機掘削作業（北から）



3. 基準点測量



4. 作業風景（南から）



5. 文化財保護課検査



6. 浜中検証委員の視察



7. 埋め戻し作業



8. 埋め戻し終了後（南から）

図2 調査経過写真

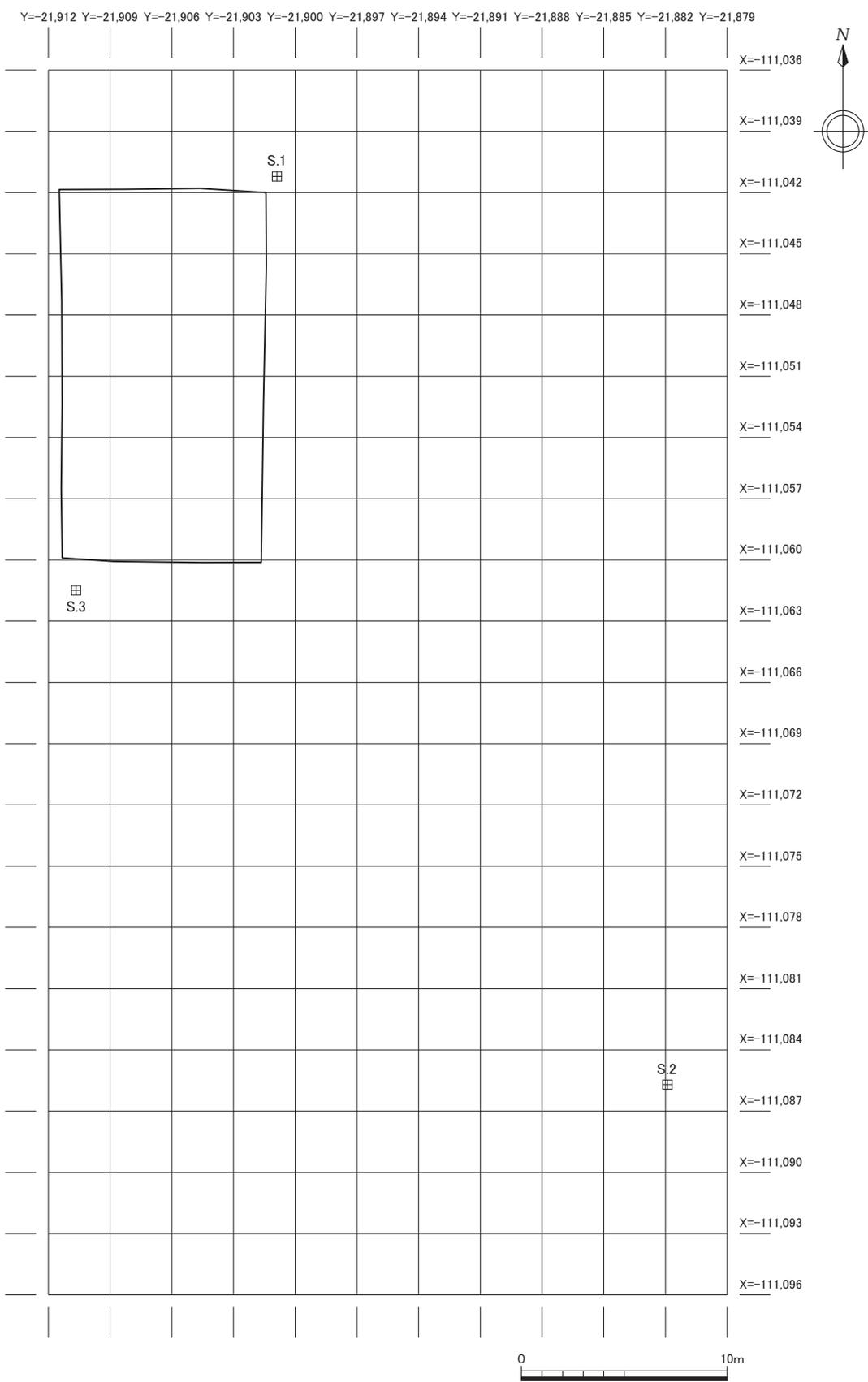


図3 調査区地区割図 (1 : 300)

第Ⅱ章 位置と環境

1 位置と環境

対象地は、烏丸通と松原通の交差点東南にあたる。現況の敷地は現代の整地面上ではあるが北側の松原通に面した個所で標高 34.2 m、敷地南東の駐車場部分で 33.7 m を測り、北から南に 0.5 m の比高差を持つ。賀茂川扇状地は北東から南西に傾斜しており、扇状地を形成する直径 5 cm の礫の砂礫層が基盤面となっている。その扇状地上には平安時代以前の遺跡も立地している。当該地も平安京以前の遺跡として下層には弥生時代から古墳時代の集落跡とされる烏丸綾小路遺跡が周知されている。

調査地は平安京の条坊では左京六条三坊十六町に相当する。北を五条大路、南を樋口小路、東を東洞院大路、西を烏丸小路によって画された町の北西に位置する。

左京六条三坊十六町の平安時代前・中期の様子は不明な点が多いが、後期になると六条天皇の御所となった五条東洞院内裏が存在した。この五条東洞院内裏は十六町と西隣の九町を所有していた藤原邦綱により造営される。後、高倉天皇、安徳天皇の御座所とされ、平家滅亡後は、藤原基通の屋敷地となった。

太田静六氏は寝殿造りの研究において東洞院御所の復元をしており、それによると調査地の十六町北西部に東宮御所を復元している。

戦国時代には因幡堂南側に下京惣構が築かれ、五条大路の南側に位置する調査地は、惣構えの外側になったものと思われる。その後、豊臣秀吉の天正地割にともない、方広寺参詣道として六条坊門小路の東に鴨川を渡る五条橋を架けたことから、五条大路は松原通りと呼ばれるようになった。

参考文献

山田邦和 『2左京全町の概要』「平安京提要」 角川書店 1994 年

太田静六 『寝殿造りの研究』 吉川弘文館 1987 年

2 既往の調査（図 4・表 1）

調査地の所在する左京六条三坊十六町内の調査は、調査地 18 - 2・3・4、で地下鉄烏丸線建設工事に伴う調査がある。18 - 2 は烏丸線 No. 38 地点で平安時代末期、室町時代の南北溝を検出している。また、18 - 4 の立会調査 19 地点では、平安時代後期から室町時代の樋口小路の路面及び南北の側溝を検出している。

五条大路に係る調査は、調査 2・3・14・17 がある。

調査 2 は、五条三坊五町にあたり五条大路北築地が想定された。旧建物の基礎などにより遺跡の保存状態が悪く 60 m²ほどの調査であった。調査の結果、想定五条大路北築地心から 1.2 m の位置で東西方向の地山の段差が認められた。位置関係から五条大路北側溝の可能性を想定している。

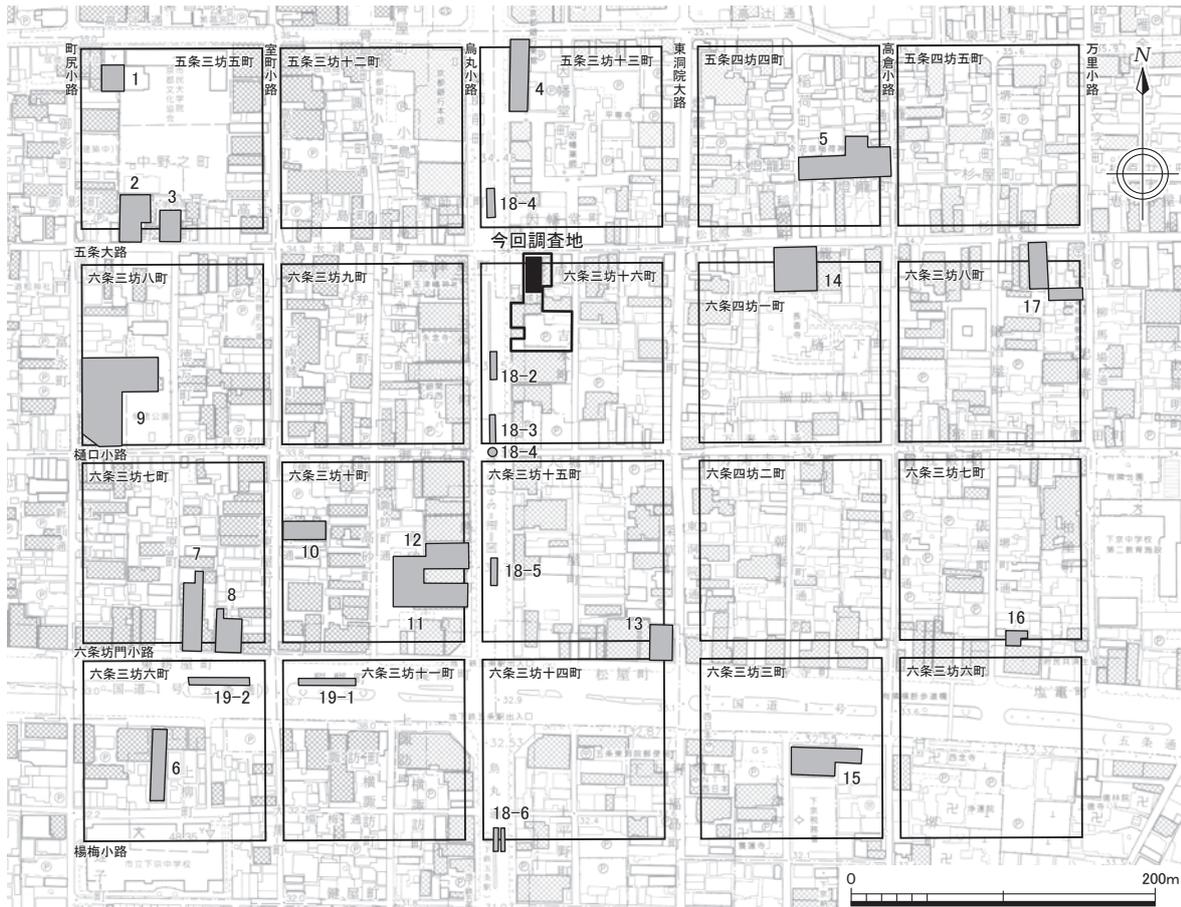


図4 既往調査位置図（1：5,000）

また、築地心想事成ライン上で平安時代中期に位置づけられる灰釉陶器短頸壺が出土し、埋土内からは延喜通寶が出土していることなどから地鎮遺構と想定している。

調査3は調査2の東隣の地点である。基礎工事に伴う立会調査で、平安時代の遺構・遺物の確認はしていないが下層遺跡の烏丸綾小路遺跡に伴う流路とみられる遺構を確認し、弥生時代後期後半の土器を多く採集している。

調査14は六条四坊一町の中央部北辺にあたる。調査では平安時代から江戸時代にわたる多数の遺構を検出している。しかし調査区内では五条大路に伴うとみられる溝などの検出はしていない。平安時代の遺構では、一町の東西の中心にあたる位置で南北方向の溝を検出している。

調査17は六条四坊八町にあたる。平安時代の溝、鎌倉から室町時代の溝・柱穴、戦国時代の堀・溝・井戸、江戸時代の鋳造遺構などを検出している。五条大路南側溝は平安時代前期から後期まで想定位置で検出している。その後平安時代末期、室町時代初頭と側溝が街路側に拡張されていく状況が明らかにされた。また戦国時代の南北方向の堀を検出している。堀は北で東に曲がっているようであるが、調査区外にあるためどのように延伸するかは不明である。

表1 既往調査一覧

	条坊	種別	主な遺構	文献
1	五条三坊五町	発掘	弥生時代から古墳時代の流路、平安時代後期から室町時代の井戸・土坑・柱穴、桃山時代から江戸時代の井戸・土坑など	(1)
2	五条三坊五町	試掘	五条大路北側溝に推定される地山の段差、土坑、10世紀の地鎮遺構など	(2)
3	五条三坊五町	立会	弥生時代後期の流路	(3)
4	五条三坊十三町	発掘	古墳時代の流路、平安時代の井戸、室町時代の高辻小路南側溝に推定できる溝、土坑など	(4)
5	五条四坊四町	試掘	奈良時代の柱穴・土坑、平安時代から室町時代の柱穴	(5)
6	六条三坊六町	発掘	平安時代中期の井戸、平安時代後期から鎌倉時代の土坑・柱穴、室町時代から桃山時代の井戸・柱穴など	(6)
7	六条三坊七町	発掘	奈良時代の溝、平安時代の井戸・土坑・柱穴、室町時代の井戸・柱穴、平安時代から室町時代の六条坊門小路路面・北側溝など	(7)
8	六条三坊七町	発掘	平安時代の井戸・柱穴、鎌倉時代から室町時代の井戸・土坑・柱穴、江戸時代の石室・井戸・土坑、平安時代から江戸時代の六条坊門小路路面・北側溝など	(8)
9	六条三坊八町	発掘	古墳時代の竪穴建物・流路、平安時代の掘立柱建物・井戸・溝・土坑・地鎮遺構、鎌倉・室町時代の石室・井戸・溝・土坑、平安時代から鎌倉時代の町尻小路の側溝・内溝、樋口小路築地内溝など	(9)
10	六条三坊十町	発掘	古墳時代前期の土坑（鼓形器台出土）、平安時代の井戸・土坑、鎌倉時代の溝、室町時代の土坑など	(10)
11	六条三坊十町	発掘	飛鳥・奈良時代の流路、平安時代の流路、平安時代中期以降の園地とそれに伴う柱穴列、平安時代後期から江戸時代の六条坊門小路路面と北側溝など	(11)
12	六条三坊十町	発掘	平安時代の土坑、調査11検出の園地遺構の延長部、平安時代後期の六条坊門小路、鎌倉時代の井戸・土坑、室町時代の井戸・土坑、江戸時代の井戸・溝・土坑など	(12)
13	六条三坊十四町・十五町	発掘	平安時代後期の東洞院大路西側溝・路面、平安時代中期の六条坊門小路北側溝・路面、室町時代末期の南北方向の濠、桃山時代から江戸時代の整地層など	(13)
14	六条四坊一町	発掘	平安時代の一町を画す南北方向の溝など	(14)
15	六条四坊三町	発掘	室町時代の池・墓・溝・土坑など	(15)
16	六条四坊六町	発掘	平安時代から江戸時代の六条坊門小路路面・北側溝、江戸時代の井戸、土坑、集石遺構など	(16)
17	六条四坊八町	発掘	平安時代、室町時代の五条大路南側溝、戦国時代の堀、江戸時代の鑄造遺構など	(17)
18	五条三坊十三町、六条三坊十五町・十六町・十四町	発掘	平安時代末、室町時代の南北方向の溝など、平安時代後期から室町時代の樋口小路路面・南北側溝など	(18)
19	六条四坊六町・十一町	発掘	奈良時代から平安時代前期の流路、平安時代後期の土坑など	(19)

参考文献

- (1) 「平安京左京五条三坊五町跡・烏丸綾小路遺跡」『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2008-9』 財団法人 京都市埋蔵文化財研究所 2008年
- (2) 「平安京左京五条三坊五町跡・烏丸綾小路遺跡No.63」『京都市内遺跡試掘調査報告 平成28年度』 京都市文化市民局 2017年
- (3) 「6 左京五条三坊五町(93HL96)」『京都市内遺跡立会調査報告-平成5年度-』 京都市文化市民局 1997年

- (4)「15 平安京左京五条三坊(2)」『昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要(発掘調査編)』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1981年
- (5)「平安京左京五条四坊四町跡・烏丸綾小路遺跡No.65」『京都市内遺跡試掘調査概報 平成28年度』京都市文化市民局 2017年
- (6)「11 平安京左京六条三坊(1)」『平成2年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人 京都市埋蔵文化財研究所 1994年
- (7)「平安京左京六条三坊七町・京都市下京区小田原町・東鋸町」京都文化博物館調査研究報告第11集 財団法人 京都文化博物館 1995年
- (8)「12 平安京左京六条三坊(2)」『平成2年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人 京都市埋蔵文化財研究所 1994年
- (9)「3 平安京左京六条三坊」『平成11年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人 京都市埋蔵文化財研究所 2002年
- (10)「平安京左京六条三坊」『平安京跡発掘調査概報 昭和57年度』京都市文化観光局 1983年
- (11)「13 平安京左京六条三坊(2)」『平成2年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人 京都市埋蔵文化財研究所 1994年
- (12)「6 平安京左京六条三坊」『平成10年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人 京都市埋蔵文化財研究所 2000年
- (13)「14 平安京左京六条三坊」『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人 京都市埋蔵文化財研究所 1991年
- (14)「14 平安京左京六条四坊」『平成元年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人 京都市埋蔵文化財研究所 1994年
- (15)「平安京左京六条四坊三町跡」『京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2006-29』財団法人 京都市埋蔵文化財研究所 2007年
- (16)「平安京左京六条四坊六町跡」『平安京内5遺跡 第22輯』財団法人 古代学協会 2008年
- (17)「平安京左京六条四坊八町跡 京都市下京区松原通堺町東入る杉屋町288-1、289-1・2他の調査」株式会社四門 2020年
- (18)『京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査年報Ⅰ』1974・75年度 京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会 1979年
『京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査年報Ⅱ』1976年度 京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会 1980年
『京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査年報Ⅲ』1977～1981年度 京都市高速鉄道烏丸線内遺跡調査会 1982年
- (19)「8 平安京六条三坊」『昭和59年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人 京都市埋蔵文化財研究所 1987年

第Ⅲ章 調査成果

1 基本層序（図5）

調査地の基本的な堆積層は、現地表面下約0.4m～約1.5mは近現代の盛土・整地土で、層厚は調査区の北部で薄く0.4m、南部で最大になり1.5mある。この近現代盛土・整地土は、焼土・炭を比較的多く含み、小礫を含む層である。直下に5層10YR4/3にぶい黄褐色～7層10YR2/3黒褐色泥砂からなる近世整地土が堆積している。近現代の盛土・整地層とは逆に北側で厚く南東部では堆積が確認できず下層が露出する。層厚は北で0.7m～0.5mある。この5層と7層の間には薄く直径50～60mmの円礫を含む砂礫層が堆積する。当該層を除去すると10層10YR3/3暗褐色シルト～泥砂、16層7.5YR3/2黒褐色泥砂があり、10層は調査区北端にしか見られない。層厚は0.1m前後である。この10・16層直下に18層7.5YR4/3褐色シルトが堆積しており、層厚は0.1m～0.2mである。この層を除去すると基盤層とみられる61層5Y7/4浅黄色シルト及び62層2.5YR4/2灰赤色砂礫となる。

調査は、5・7層上面を第1面、10・16層上面を第2面、18・24層上層を第3面として実施した。第3面は基盤層の61・62層上面で調査を行ったが、複雑な遺構の重複が認められたため第3面A・Bの2時期に分けて調査を行った。

2 検出遺構（表2）

第1面で検出した遺構は主に井戸・土坑がある。第2面では井戸・溝・土坑・柱穴を検出した。第3面では溝・堀・土坑を検出した。第1面で検出した遺構からは17世紀中葉、第2面で検出した遺構からは14世紀後葉から15世紀前葉、第3面Aの遺構からは13世紀後葉から14世紀前葉、第3面Bで検出した遺構から9世紀から10世紀中葉に属すると考えられる遺物が出土した。

表2 遺構概要表

検出した遺構の総数：111		
検出面	時期	主な検出遺構
1面	江戸時代以降	土坑5
2面	室町時代	堀77、溝33、土坑34・36・38・40・67、井戸19
3面A		
3面B	平安時代	溝66・88

(1) 第3面B（図6・7・8・11）

溝、土坑、小土坑を検出した。小土坑は柱穴とみられるが、柱の並びや柱痕跡が認められなかった。

溝88

調査区西よりで検出した南北方向の溝状遺構で、ほぼ正方位にのる。X-111,047ラインから南に断続的に約12mを調査した。南は調査区外に延び、北は五条大路南築地心の想定ラインを越えて北に延びない。検出面での幅は1.0m～1.65m。検出面から底面までの深さは約0.45mである。埋土は単

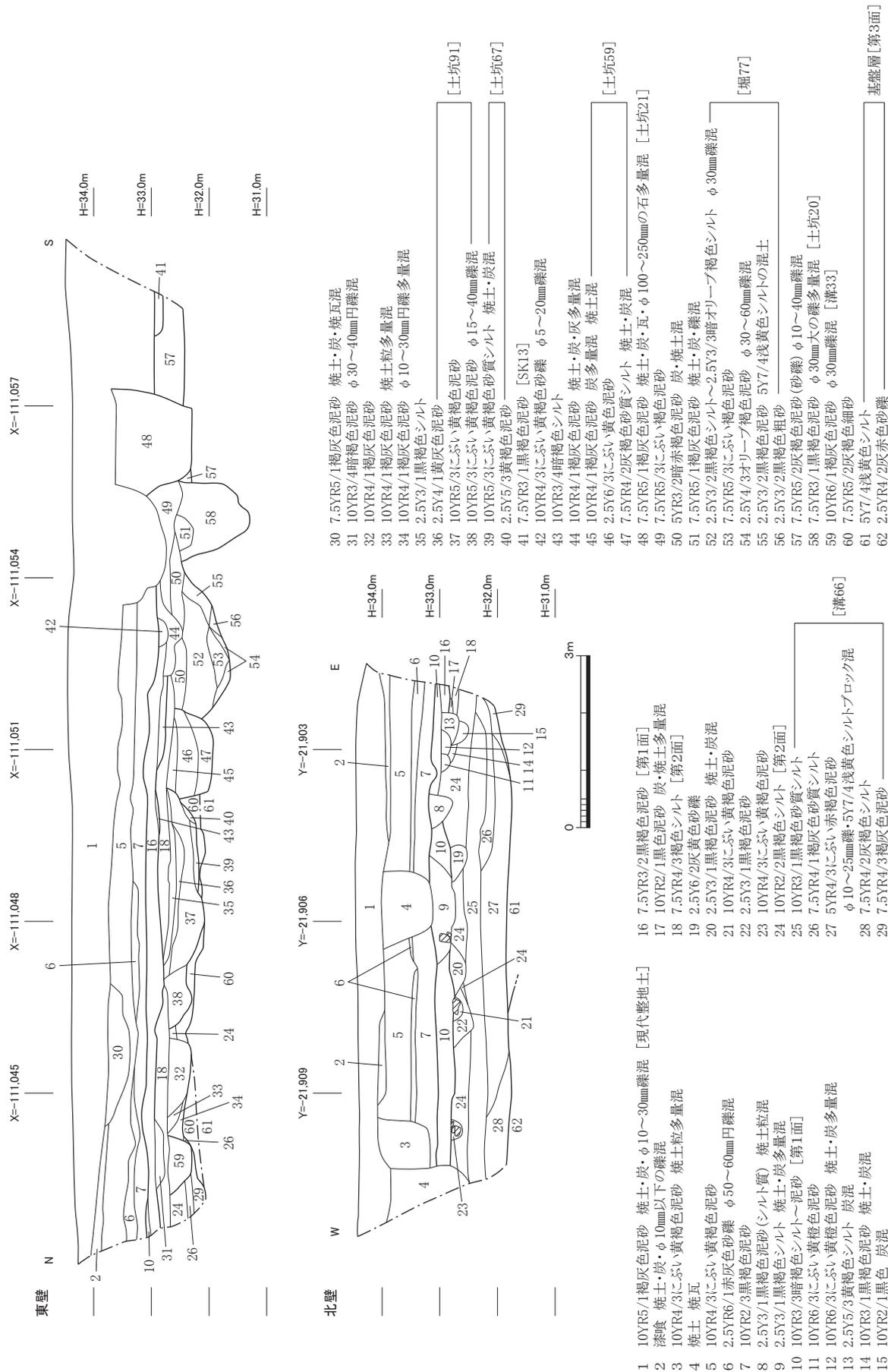


図5 調査区断面図 (1:100)

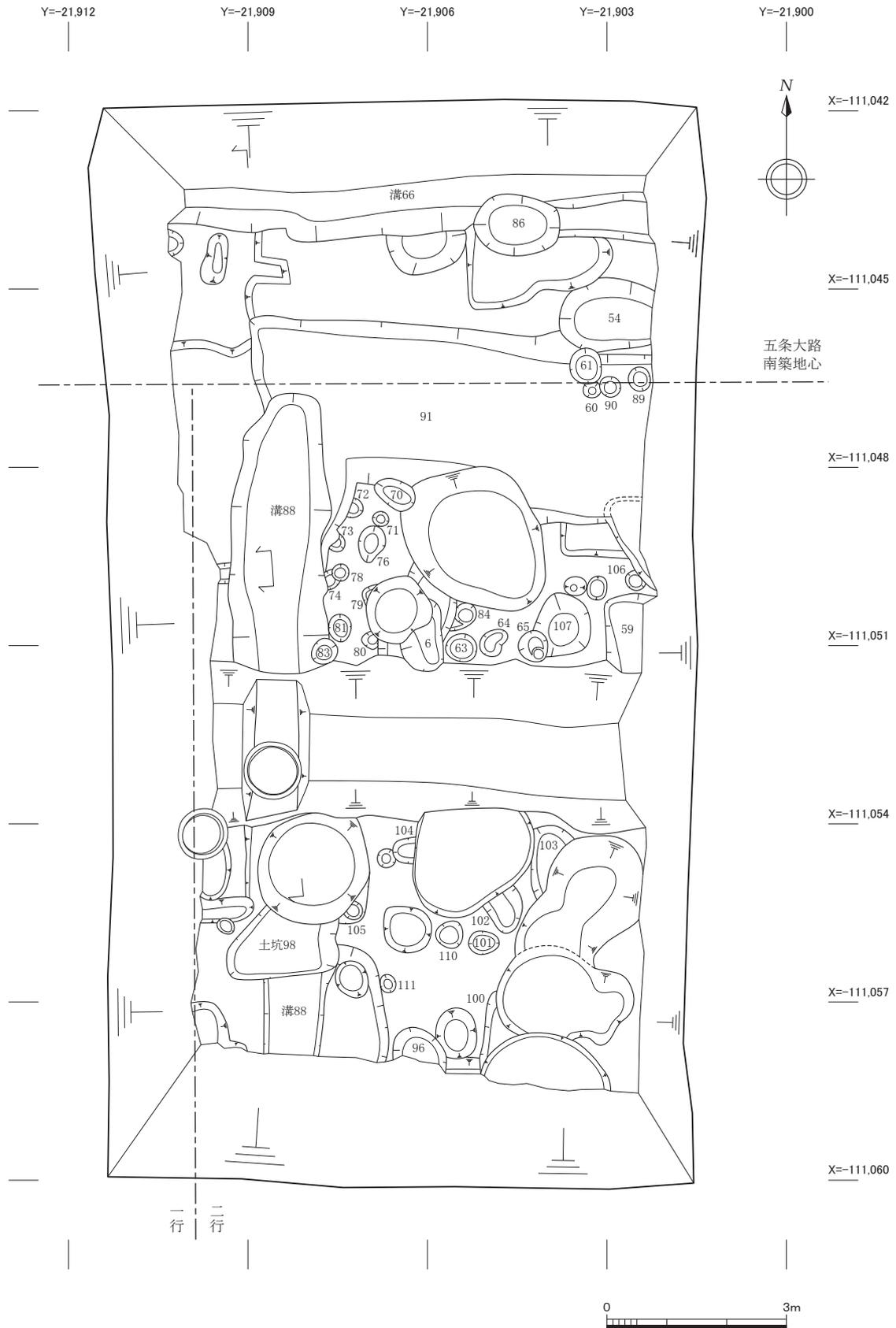


图6 3面B平面图 (1 : 100)

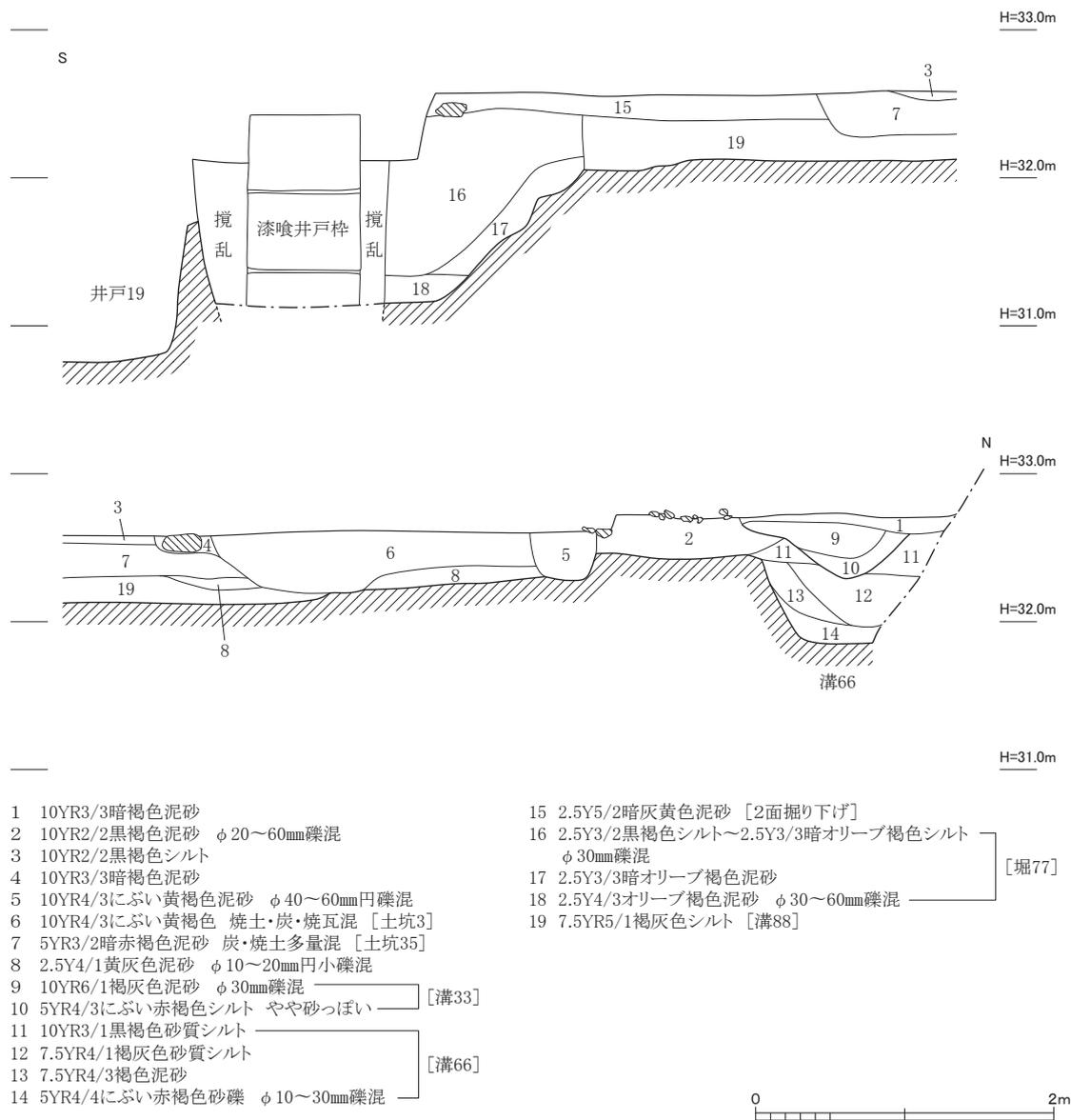


図7 溝88・66・33、堀77、土坑51・35・3断面図（1：50）

層で7.5YR5/1褐灰色シルトである。9世紀から10世紀中葉の遺物が出土している。

溝66

調査区北端で検出した東西方向の溝と思われる遺構。東西8mにわたり検出した。北肩部は調査区外になるため検出していない。南側の肩部は五条大路南築地心の想定ラインから北約2.4mである。検出面から底面までの深さは約0.6mを測る。埋土は10YR3/1黒褐色シルト、7.5YR4/1褐灰色砂質シルトなどである。「春」と墨書された土器、瓦質の煉瓦状の遺物が出土しており、他には10世紀中葉の遺物が出土している。

(2) 第3面A (図7・9・10・13)

堀77

調査区中央部で検出した東西方向の堀。検出面での幅2.4m~2.7m、深さ1.1m~1.3mを測るU

字溝である。溝底は東から西に傾斜をもつ。埋土は2.5Y3/2黒褐色シルトで畔の観察では堆積土にほとんど差がなく一度に埋められた可能性がある（図7）。13世紀前葉と考えられる遺物が多く出土するが、わずかに14世紀中葉とみられる所謂ヘソ皿を含む遺物が出土している。

土坑32・34

堀77の北側で検出した。土坑34は南北2.13m、東西2.45mの平面不定形を呈する土坑で、検出面から底面までの深さは約0.6mである。土坑32は、土坑34の北側で検出した。東西2.5m、深さ0.25mの不定形を呈する土坑で、土坑34により南側が重複し、削平されているものと思われたが堆積土の観察や、同一個体のもので出土したことなどから同じ遺構と考えた。埋土は船底形に数層が堆積するが、5層10YR4/3にぶい黄褐色泥砂・6層7.5YR2/1黒色シルトからは多量の炭とともにまとまって遺物が出土した。13世紀後葉と考えられる。

土坑67

堀77の北側、調査区東端で検出した。遺構の北側は後世の遺構などにより削平され、東側は調査区外となる。残存している部分で深さ約0.05mを測る。埋土は焼土・炭を多く含む10YR5/3黄褐色の砂質シルトと2.5Y5/3泥砂層である。14世紀前葉とみられる遺物が出土している。

(3) 第2面 (図11・12・13・14)

溝33

調査区北部で検出した東西方向の溝。検出面での幅1.0m～1.25m、深さ0.3m～0.45mを測るU字溝である。埋土は10YR6/1褐灰色泥砂で、底面は緩やかに西に傾斜をもつ。五条大路南築地心推定ラインから北に2.2mのところ南肩がある。出土遺物は少ないが、14

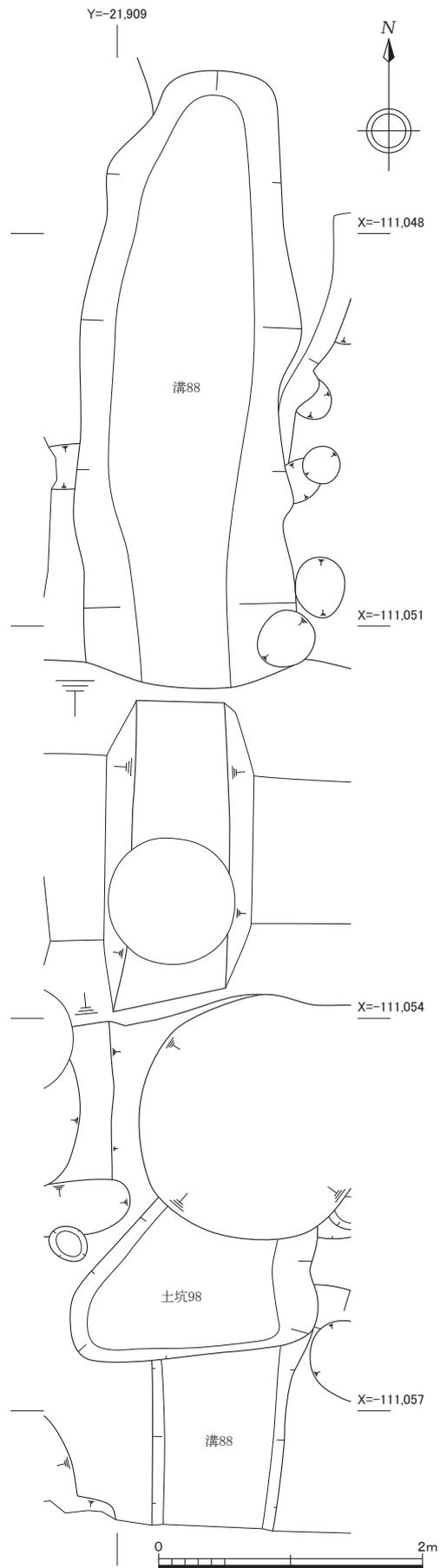


図8 溝88平面図 (1:50)

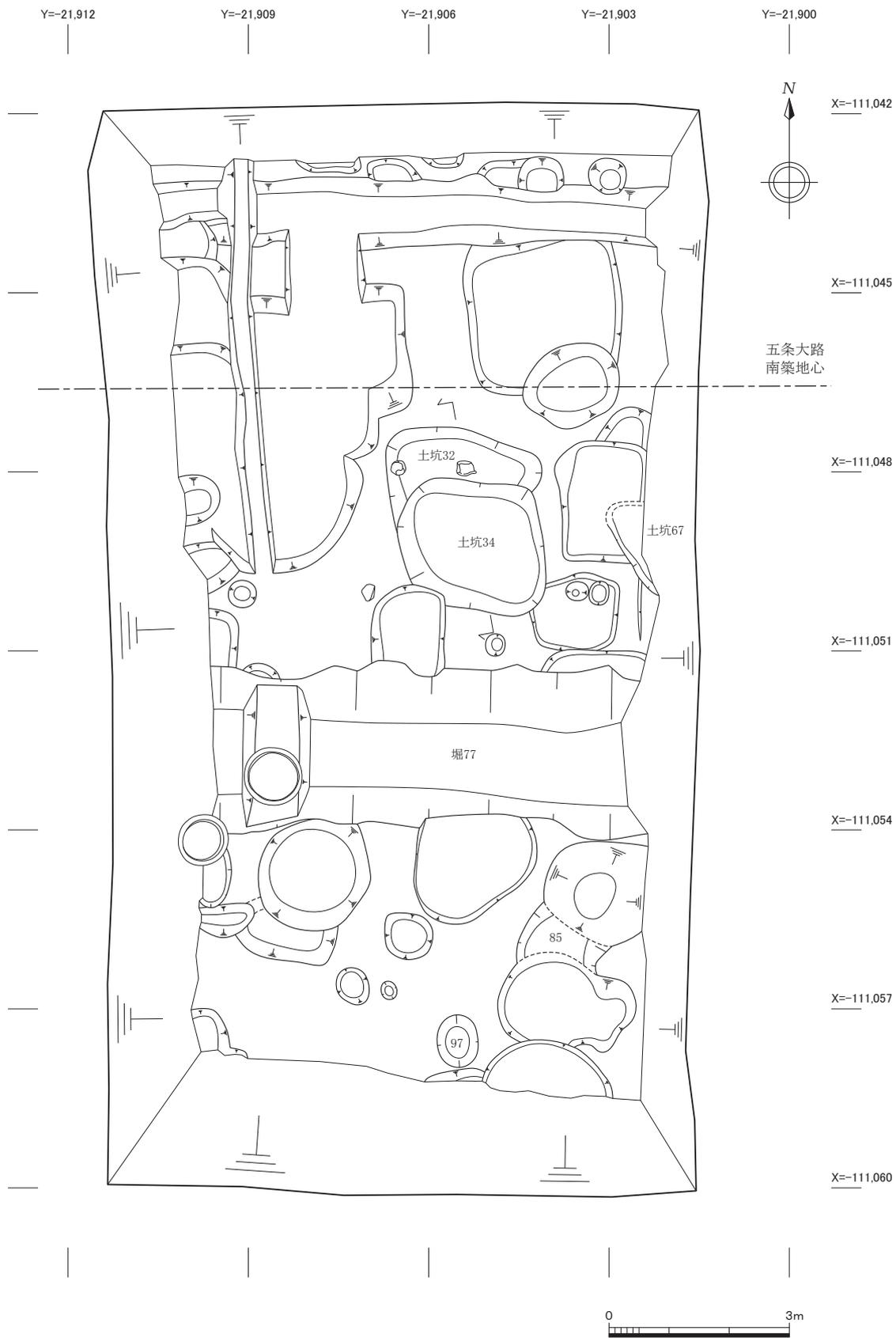


图9 3面A平面图 (1 : 100)

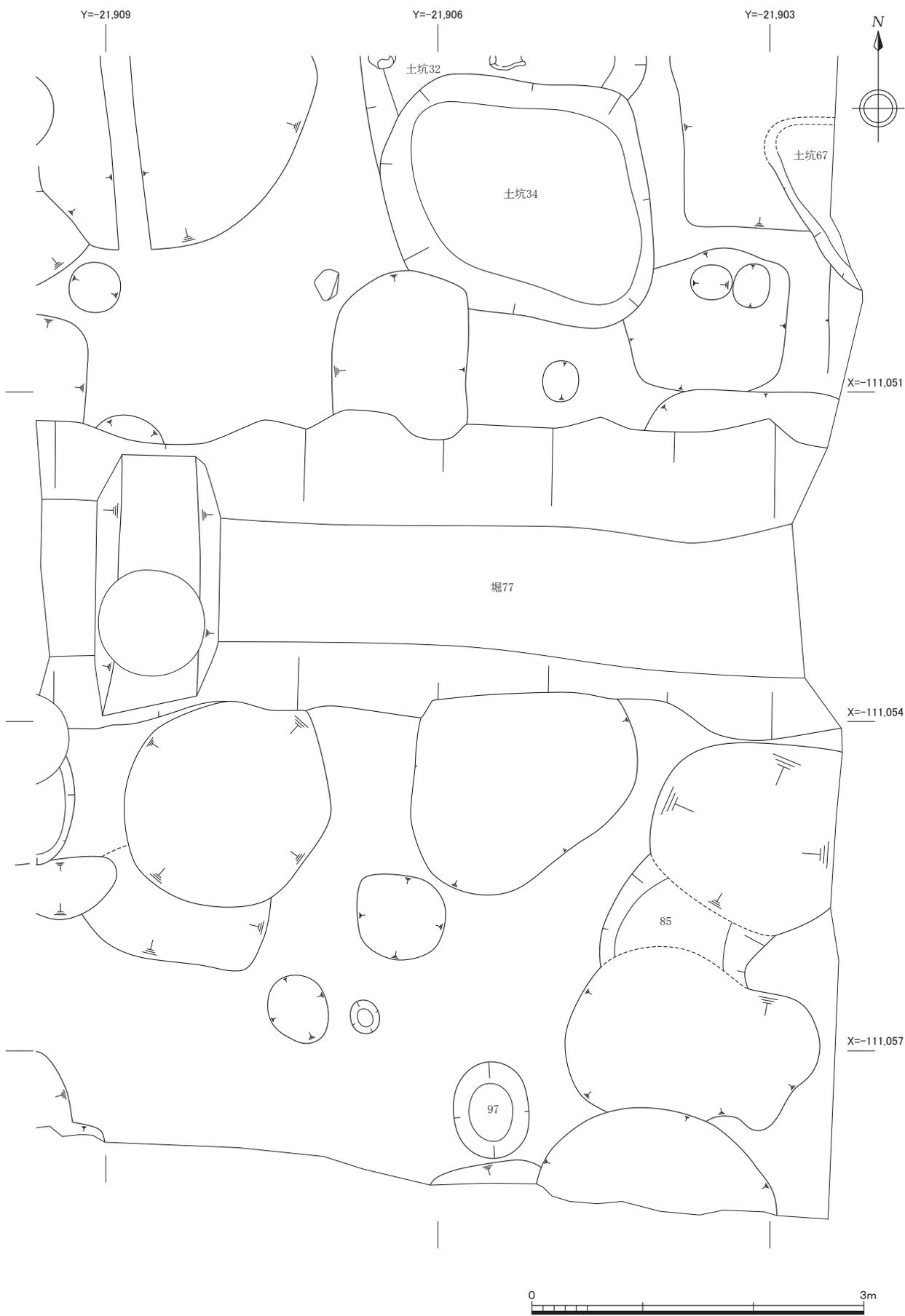


图10 堀77、土坑67平面图 (1 : 50)

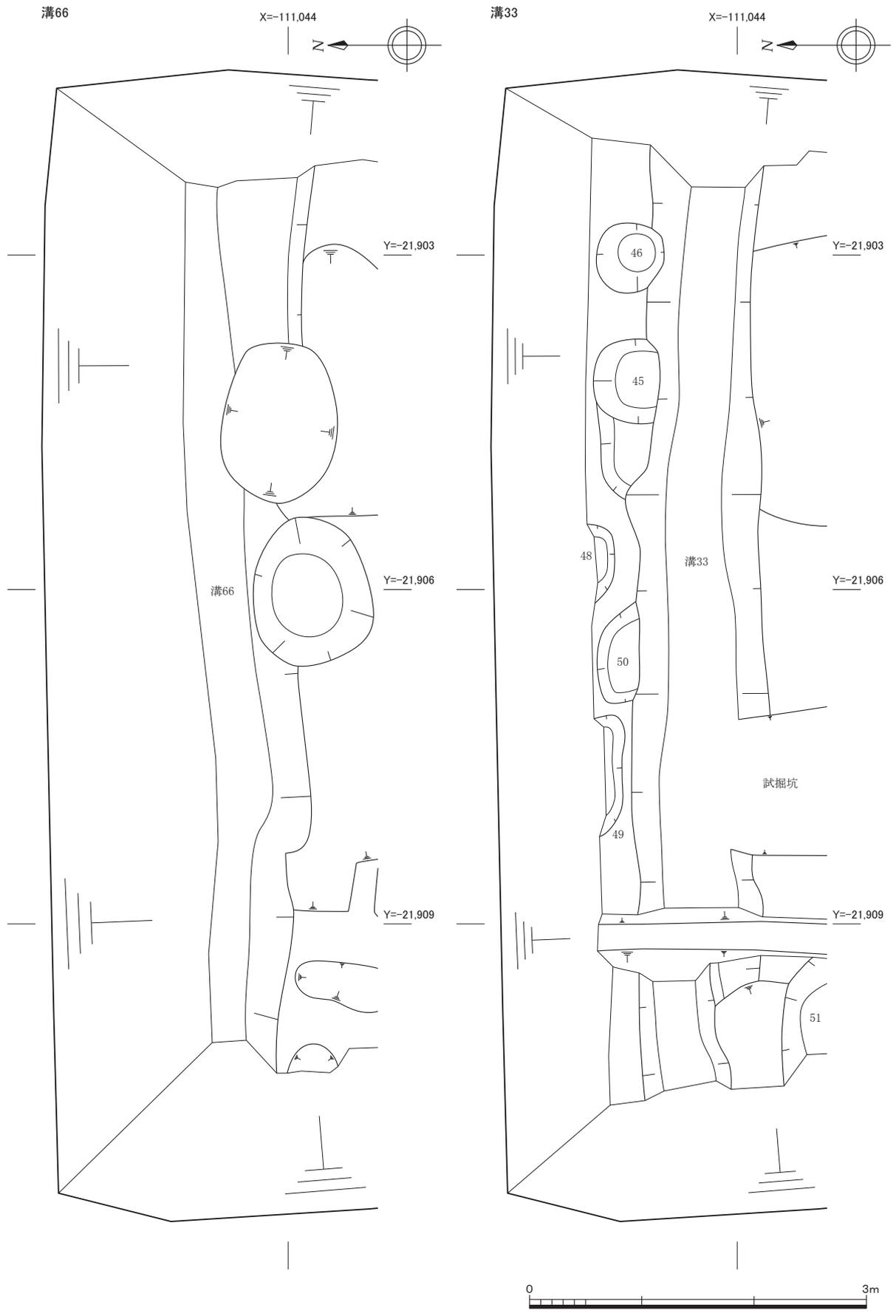


图11 溝66·33平面图 (1 : 50)

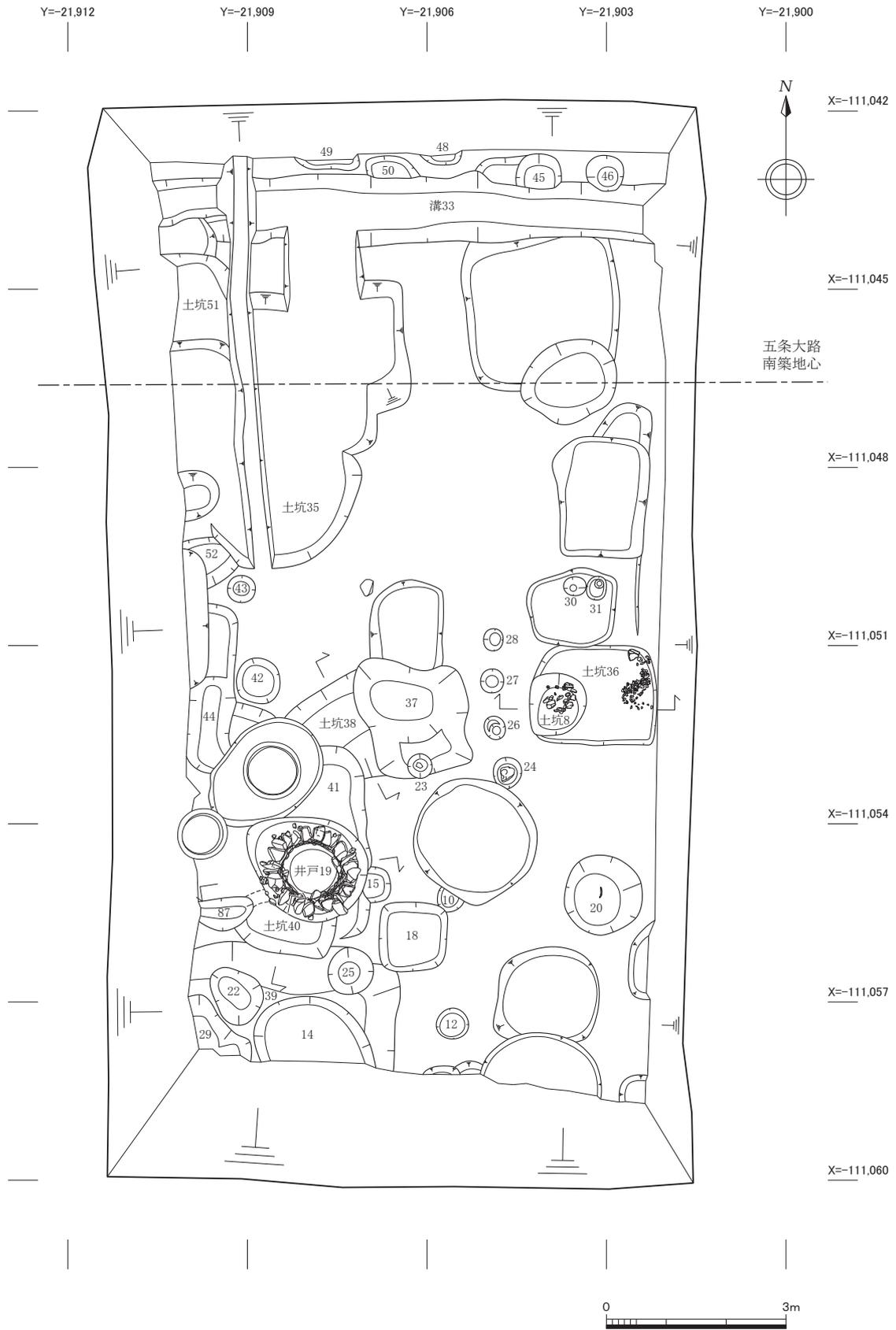


图12 2面平面图 (1 : 100)

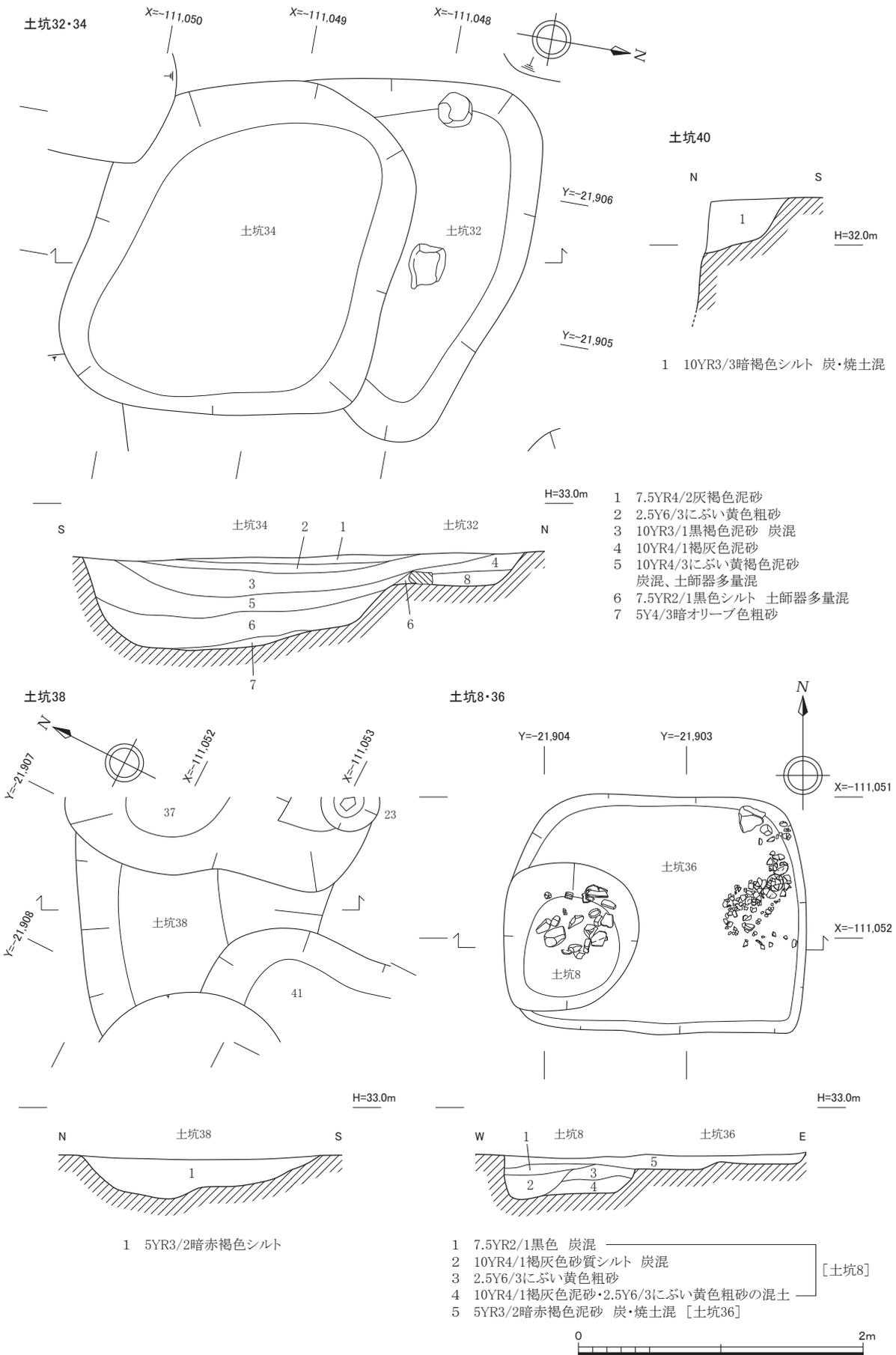
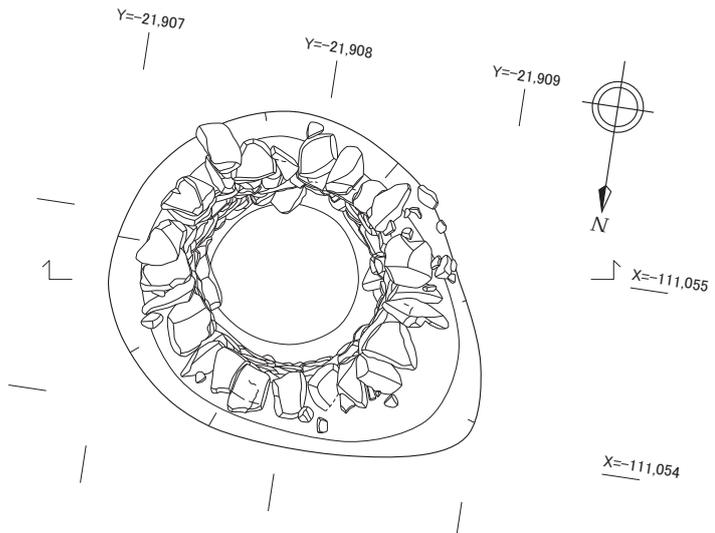


図13 土坑32・34・38・8・36・40平面・断面図 (1:40)

世紀中葉から14世紀末の遺物が出土している。

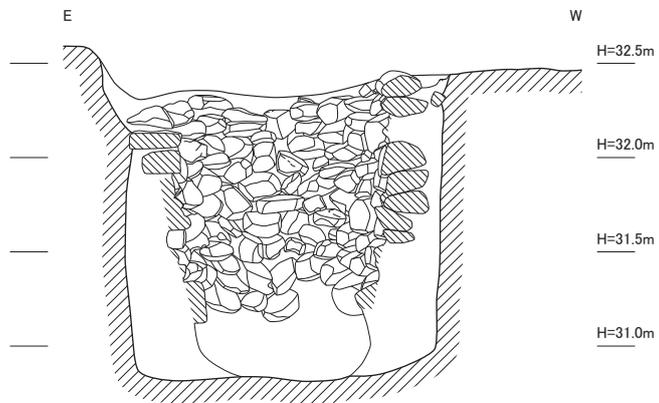
土坑36

調査区中央東側で検出した東西2.1m、南北1.65m、深さ約0.15mを測る平面隅丸方形の土坑。埋土は5YR3/2暗赤褐色泥砂で焼土・炭を多く含む。西側に直径約1.0m、深さ約0.35mを測る土坑が重複する。14世紀中葉から14世紀末の土師器が多量に出土している。



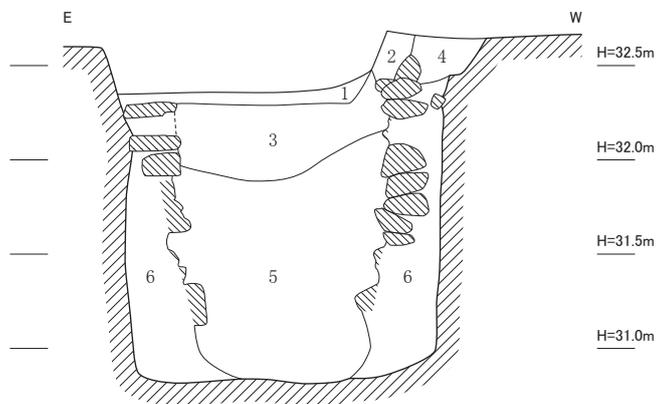
土坑40

調査区南西部で検出した。北側を井戸19と重複し井戸19が新しい。平面形・規模は不明であるが、深さ0.35mを測る。埋土は10YR3/3暗褐色シルトで15世紀前葉の土師器が多く出土した。特に白色系の皿Sが大半を占める。完形の天目椀1点も出土している。



土坑38

調査区中央やや南で検出した。現代の漆喰井戸や遺構に削平され平面形は不明である。深さ0.2m～0.28mあるが底部には凹凸がある。埋土は5YR3/2暗赤褐色シルトで埋土内から滑石製羽釜片がまともに出て出土した。時期を推定できる土師器などの出土はない。



- 1 7.5YR4/1褐灰色泥砂
- 2 10YR3/1黒褐色泥砂
- 3 7.5YR4/1褐灰色泥砂 φ50～150mm円礫混
- 4 10YR3/2黒褐色泥砂 炭混
- 5 7.5YR4/1褐灰色シルト φ50～200mm円礫・炭混
- 6 10YR3/2黒褐色シルト φ10～50mm礫混 [堀方]

図14 井戸19平面・立面・断面図（1：40）

井戸19

調査区南西部で検出した。直径1.7mの円形掘方で、内法1.0mで円形石積みを造る。石積みのも最

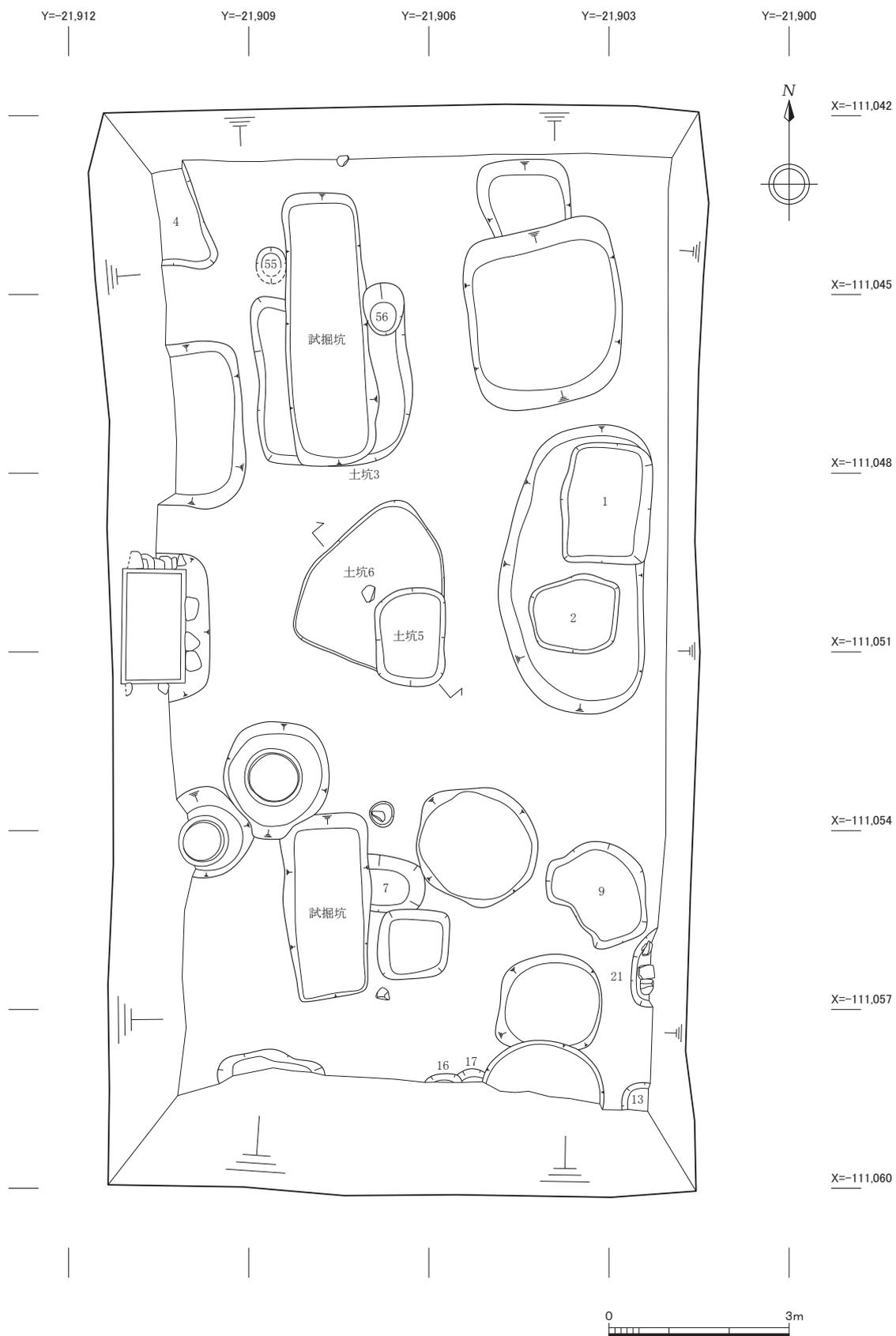


图15 1面平面图 (1 : 100)

下段から0.26mで井戸底となり底面は標高30.80mである。石積み下部に木柵があったものと思われるが、残存していない。井戸内の埋土は7.5YR4/1 褐灰色の泥砂からシルトで、150mm～200mmの大きな川原石が混在していた。出土遺物は瓦と焼締陶器だけで時期の詳細は不明である。

(4) 第1面 (図15・16)

土坑5

調査区中央部で検出した。長径1.65m、短径1.15mの隅丸方形の平面形を呈す。長軸はほぼ座標軸に並行する。深さは0.35mある。検出面では褐色の粘質土ブロックと多量の炭層がみられ、下層は10YR4/1 褐灰色泥砂であった。土坑6と重複し土坑5が新しいが、大きな時期差は無く、同一の遺構とも思われる。17世紀中葉と考えられる遺物が多量に出土した。

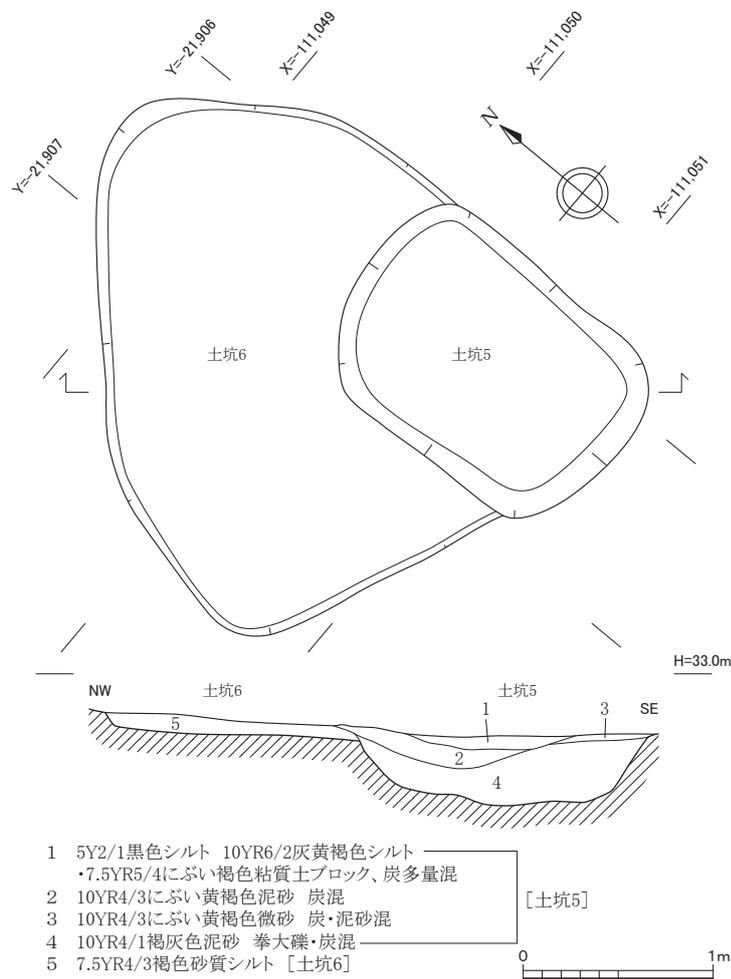


図16 土坑5・6平面・断面図 (1:40)

3 出土遺物

遺物は収納コンテナで28箱が出土した。土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、黒色土器、白色土器、瓦器、瓦質土器、輸入陶磁器、施釉陶器、焼締陶器、磁器、瓦、金属製品、石製品が出土した。平安時代前期から近世に至る時期のもので平安時代後期、鎌倉時代、桃山時代に属する時期の遺物は少ない。また白色土器、瓦器の出土量も少ない。ほかに古墳時代前期に比定されるとみられる土師器片も出土している。

表3 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク点数	Cランク点数
古墳時代	土師器		土師器2点		
平安時代	土師器、須恵器、黒色土器、白色土器、緑釉陶器、灰釉陶器、瓦		土師器12点、須恵器14点、黒色土器8点、緑釉陶器11点、灰釉陶器14点、瓦2点		
平安時代末～鎌倉時代	土師器、須恵器、瓦器、輸入陶磁器、瓦		土師器3点、須恵器1点、輸入陶磁器7点、軒瓦1点		
室町時代	土師器、須恵器、瓦器、瓦質土器、灰釉陶器、輸入陶磁器、施釉陶器、焼締陶器、瓦、石製品		土師器78点、須恵器5点、瓦質土器3点、輸入陶磁器2点、焼締陶器3点、施釉陶器2点、軒瓦2点、石製品7点、		
江戸時代以降	土師器、土製品、土師質土器、瓦質土器、輸入陶磁器、施釉陶器、焼締陶器、染付、金属製品、石製品		土師器23点、土製品4点、土師質土器4点、瓦質土器1点、輸入陶磁器1点、焼締陶器1点、施釉陶器6点、染付2点、金属製品4点、石製品3点		
合計		40箱	合計225点 11箱	0箱	29箱

※コンテナ数の合計は、整理後遺物の抽出・復元などにより12箱多くなっている。

古墳時代の土器

1は土師器甕口縁部片。口径14.8cm。くの字形に開く口縁部で端部は小さく摘み上げ、丸く収める。摩滅が著しいが体部内面はケズリ、口縁部はナデ。

2は土師器の壺底部で調整は不明である。1・2ともに溝66からの出土。

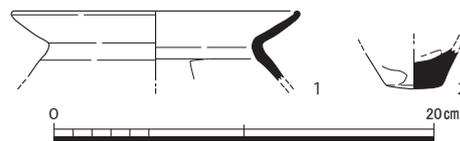


図17 古墳時代の土器（1：4）

溝88

堆積土は単層であったが出土遺物は2時期に分けられた。3～22までが平安時代前期9世紀中葉に、23～35までは平安時代中期の10世紀中葉にあてられる。

3・4は土師器皿Aである。3は口径11.8cm、器高4.4cm。4は口径18.6cm、器高1.8cm、ともに平坦な底部から体部が外方に立ち上がり、端部は平滑に仕上げられる。口縁端部は丸く収められる。底部外面には指押さえの痕跡が残り、口縁部外面から体部上半内面、体部内面にヨコナデが施される。

5・6は土師器杯Aである。5は口径5.6cm、器高1.2cm。6は口径17.4cm、器高3.1cm。底部か

ら緩く内湾しながら外方へ体部が立ち上がり、口縁端部は丸く収められる。5は底部から外方に直線的に立ち上がり、口縁端部は丸く収められる。体部内面はナデ、外面は摩滅著しいがヨコナデによる調整とみられる。6は底部外面から体部外面をケズリ、内面にナデ、口縁部内外面にヨコナデが施される。

7は土師器杯Bである。口径15.0cm、器高3.8cm、高台径7.4cm。高台は貼付け高台で丸く外側に踏ん張る。体部は湾曲して立ち上がり端部は平滑に収められる。底部内面及び体部内外面はヨコナデを施している。

8～11は土師器碗Aである。口径は12.5cmから13.3cm、器高は2.9cmから3.2cm、8は比較的平坦な底部、9～11は丸みのある底部から丸みを持って外方に立ち上がり端部は丸く収められる。体部外面中ほどから底部はオサエ、外面中ほどから内面はヨコナデと内面はヨコナデ後ナデを施す。

12は須恵器蓋である。口径14.2cm。ロクロナデの痕跡を残す。

13～16は須恵器杯Bである。13～15は高台径8.5cm～10.8cm、16は口縁部径14.8cm、器高5.6cm、高台径10.8cmである。

17は須恵器碗体部片である。口径14.8cm。体部は丸みを持ち外方に立ち上がり、端部は外反して平滑に収められる。胎土は薄く、無釉であるが灰釉碗の可能性はある。

18は須恵器鉢である。口径15.8cm。肩部に最大径があり短く内傾しやや外反して立ち上がる端部は平坦に仕上げられる。

19・20は須恵器壺である。19は底径8.7cm。糸切の底部からやや斜め外方に直線的に立ち上がる体部である。20は底径3.9cm。糸切の底部から丸みを持って立ち上がる体部。瓶子である。

21・22・23は緑釉陶器である。21は碗で底径6.2cm、ケズリ出し高台の底部から丸みを持って体部が立ち上がる。22は皿である。底径6.8cm。底部はケズリ出し高台。ともに底部外面を含め全面に施釉されている。23は壺である。底径16.2cm。底部外面は丁寧なケズリ。体部は内外面ともにロクロナデで、胎土は緻密であるが軟質。体部外面に淡い浅黄色の釉を施している。

24・25は黒色土器Aである。24は碗Aで器高3.1cm。内面に丁寧なヘラミガキを施している。体部上半はヨコナデ、下半はオサエを施す。25は碗B。高台径11.8cm。内面に丁寧なヘラミガキを施す。高台は厚く外側に踏ん張る。

26・27は灰釉陶器である。26は皿で高台径7.6cm。垂直に立つ方形の貼付け高台。釉は淡く内面にのみ施釉している。27は碗で高台径8.3cm。やや外側に踏ん張った貼付け高台で、透明感のある淡い釉が施釉されている。

28は土師器碗である。丸く湾曲して立ち上がる体部から外に開く口縁部。体部から底部外面はオサエ、口縁部はヨコナデ、内面はナデを施している。

29～31は黒色土器Aである。29は高台径6.5cm。貼付け高台で底部内面に丁寧なミガキ後に暗文を施す。30は口径15.4cm。体部外面はオサエ後ナデ、口縁部はヨコナデ、内面には丁寧なミガキを施したのち暗文を施す。31は口径16.5cm。調整は30と同じであるが体部内面下半に暗文が認められる。

32・33は灰釉陶器碗である。32は口径13.7cm。外方に丸みを持って立ち上がり端部は外に開いて丸く収められる。体部外面下方には沈線がみられる。33は高台径8.2cm。貼付け高台で、内面には若草色の濃い釉が施釉される。

34・35は緑釉陶器である。34は壺で口径4.1cm、器壁は0.4cmほどで薄く仕上げられる。丸い体部からやや外に開く短い口縁部で、端部は丸く仕上げられる。体部外面に濃い若草色の釉が施される。35は皿である。高台径7.8cm。削り出し高台で全面に施釉される。

溝66

36は瓦製の埴または煉瓦状のものである。幅14.2cm、厚さ7.8cmの方形で、残存長34.0cm、重さは7.8kgある。欠損部分は僅かに外に開く。欠損部以外には糸切痕、縄タタキ痕がみられる。

37・38は土師器である。37は皿Aでての字を呈する口縁部である。38は杯Aで口径14.8cm。外方に緩やかに立ち上がり口縁部は外反し、端部は上方に丸く仕上げられる。体部外面は口縁直下からオサエ、口縁部はヨコナデ、体部内面はナデを施す。

39・40は黒色土器Aである。39は底径8.0cm。貼付け高台で、体部外面はケズリ、内面は丁寧なミガキを施す。40も体部外面にケズリを施す。

41は黒色土器Bの碗である。内外面に丁寧なミガキを施す。口縁端部内側には一条の沈線がある。

42は須恵器蓋である。口径12.8cm。43は須恵器皿Bである。高台径6.5cm。貼付け高台で、全体に丁寧なナデを施している。

44～46は緑釉陶器皿である。44は高台径6.8cm。削り出し高台。45は口径14.4cm、器高3.2cm、高台径6.8cm。46は口径15.6cm、器高2.7cm、高台径7.2cm。丁寧なミガキののち全面に施釉を施している。

47・48は灰釉陶器又は須恵器と思われる小片で、墨書が認められる土器である。47は貼付け高台の皿底部外面に『春』と墨書される。48も同じく底部外面に墨書されていると思われ、墨書面はヘラ切り痕を残す。墨書は判読不明である。

49～54は灰釉陶器である。49・50は皿で49が口径12.4cm、器高2.8cm、高台径6.4cm。貼付け高台で高く直立した高台である。50が口径14.4cm、器高2.2cm、高台径6.0cm。やや内傾した細い貼付け高台である。ともに底部外面を除き施釉する。51は段皿である。口径18.6cm。52は小碗である。高台径5.0cm。53は壺口縁、54は壺底部である。53は口径4.8cm。口縁部は朝顔形に外に開く。54は高台径4.8cm。外に張った方形の貼付け高台で端面には段がある。共にオリーブ灰色の淡い釉がかかる。

55・56は須恵器である。55は甕である。くの字に開く口縁部で端部は上方に平滑に仕上げられる。体部内面には同心円、外面には平行タタキの痕跡がみられる。56は円面硯である。口径11.4cm。体部に透かしを穿つが、小破片のため詳細は不明。

土坑34

57～88は土師器である。57～66は皿S hである。口径6.2cm～8.0cm、器高1.8cm～2.1cm。胎土はすべて浅黄色から灰白色で緻密である。61～65は底部のへこみが少ない。

67～74は皿Sである。口径10.2cm～12.4cm、器高2.3cm～3.0cm。胎土は浅黄色から灰白色で緻密である。丸い底部から直線的に開く体部で、口縁端部は上方に丸く収める。

75～84は皿Nである。口径7.4cm～13.0cm、器高1.3cm～2.3cm。胎土は橙色からにぶい褐色である。体部は外に開く。口縁部はそのまま丸く収められる75・77・78と外反する76・79・80、底部内面と体部の立ち上がり部で屈曲し肥厚した体部の81～84がある。

85～86はロクロ成形の土師器で、85は体部の立ち上がりが1.0cm、86は口径7.0cm、体部の立ち上がりが1.0cmで口縁部は丸く平滑に収める。内面はナデ、体部はロクロナデ、底部は糸切痕を残す。87は底径6.8cm、88は口径12.4cm、器高2.5cm、底径9.6cm。87・88ともにロクロ成形で糸切痕を残す。搬入品である。

89は緑釉陶器椀である。口径13.7cm。混入品である。

90・91は青磁椀である。90は口径15.0cm。体部外面には鎬蓮弁が施され、緑灰色の釉が施される。91は底径5.3cm。厚く削り出し高台を造る。釉は灰オリーブ色を呈している。

92は土師器皿Sとみられる口縁部の小片である。墨書がされるが判読不明である。

93は瓦器の羽釜ミニチュアである。口径4.6cm、三足がつく。

94は須恵器鉢である。口径24.6cm、器高9.5cm、底径8.8cm。体部は丸みを持って立ち上がり口縁端部は上下に肥厚する。内面は使用に伴うとみられる摩滅痕が認められる。東播系の片口鉢である。

95は瓦器の鍋である。口径23.7cm、器高8.6cm。丸みを帯びた底部から垂直気味に立ち上がる体部から外側に屈曲して口縁部を造る。端部は平坦面を持つ。体部外面から底部にかけてはオサエの指頭痕が明瞭に残る。内面は丁寧なナデ。

96・97は焼締陶器甕である。96は口径39.8cm。肩部の直径は59.5cmである。最大径は肩部にあり短く内傾気味に立ち上がり屈曲してL字型の口縁部を造る。端面は平坦面を造る。ナデ・ロクロナデによる成形・調整であるが頸部内面はハケによる調整が施される。肩部に線刻が施される。97は底径15.2cm。最大径は肩部にあるとみられ肩部までの高さ44.4cm、最大径67.4cmである。体部の外面はタタキ、内面は板ナデを施す。96・97ともに常滑の甕である。

土坑67

98・99は須恵器椀である。口径はともに10.8cm、98の器高3.6cm、底径4.6cm。99の器高3.4cm、底径4.5cmでほぼ同規格である。糸切の底部から外上方に立ち上がり外に開く口縁部で端部は小さい玉縁状を呈し、口縁端部は銀化している。器壁は約0.2cmと薄い。胎土は緻密で須恵質である。

100～105は土師器である。100～102は皿Sである。口径6.7cm～11.2cm、器高2.0cm～2.9cm。胎土は灰白色で精良である。103～105は皿Nである。口径8.4cm～10.6cm、器高1.7cm～2.1cm。平坦

な底部から内面がへこみ屈曲して立ち上がる体部を呈す。

土坑36

106～114は土師器である。106・107は皿Shである。106は口径6.8cm、器高1.8cm。107は口径7.0cm、器高1.9cm。体部はヨコナデ、底部内面はナデを施す。108～112は皿Sである。口径は11.7cm～12.1cm、器高2.7cm～3.3cm。底部内面はナデ、体部外面から内面はヨコナデ、底部外面はオサエを施す。胎土は浅黄橙色から灰白色を呈し、緻密で精良である。113・114は皿Nである。113は口径9.8cm、器高1.9cm。114は口径10.4cm、器高1.8cm。平坦な底部から内面がへこみ屈曲して立ち上がる体部。口縁端部もそのまま丸く収める。115は須恵器鉢である。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部は上下に肥厚する。東播系の鉢である。

溝33

116～120は土師器である。116・117は皿Shである。116が口径7.1cm、器高は2.0cm。117は口径7.2cm。器高2.0cm。丸みを持つ底部から緩く外方に開く体部である。117の口縁端部は上方に丸く収める。118・119は皿Sである。118は口径11.6cm。119は口径13.7cm。118の口縁部は外に開く。120は皿Nである。口径10.7cm、器高2.0cm。胎土には石英、雲母の粒子が多く含まれる。121は土師器鉢である。口径6.7cm、器高4.3cm、底径8.8cm。ロクロナデを施し、胎土は密で焼成は硬質である。口縁端部から内面に墨が付着する。遺構が調査区壁際であったため壁面から落下した遺物の可能性がある。

122は古瀬戸の皿である。底径13.0cm。底部と体部外面は回転ケズリを施す。内面にオリーブ黄色の釉が施される。

123は須恵器鉢である。口径28.0cm。体部は直線的に立ち上がり、口縁端部はくの字状に肥厚する。東播系の鉢である。

124は備前の播鉢である。口径28.2cm。ロクロナデを施したのち内面には8～9本以上の単位の摺り目を縦に入れる。胎土は灰赤色で微細な長石・石英などを含むが硬く密である。

125は瓦質土器火鉢である。口縁下に菊文スタンプを押す。

126は唐草文軒平瓦である。唐草は穏やかに流れ、先端は下方に巻き込む。平瓦部凹面はナデ、布目が残る。平瓦凸部から顎にかけては縦方向のナデ。顎部は横方向のナデを施す。

土坑40

127～142は土師器である。127・128は皿Shである。127は口径6.8cm、器高1.9cm。128は口径7.0cm、器高1.8cm。朝顔形に体部が開き、口縁部は僅かに肥厚する。胎土は浅黄橙色で緻密である。129～139は皿Sである。口径8.0cm～20.0cm、器高2.4cm～4.4cm。朝顔形の体部から口縁部は外に開き、端部は小さく上方に丸く収められる。胎土は灰白色から浅黄橙色で緻密で精良である。140～142は皿Nである。口径7.8cm～9.4cm、器高1.6cm～2.0cm。平坦な底部から内面がへこみ屈曲して立ち上がる体部。口縁部はやや肥厚し、端部は丸く収める。141は古い時期の遺構からの混入品

とみられる。

143は天目椀である。口径11.2cm、器高5.1cm、底径4.1cm。底部を除き黒釉を施す。高台は露胎である。瀬戸美濃系と思われる。

堀77

144～155は土師器である。144は皿S hである。口径6.5cm、器高2.2cm。直線的に外方に立ち上がり器壁は薄く、口縁は肥厚しない。145～147は皿Sである。口径10.6cm～12.9cm、器高2.1cm～3.5cm。口縁端部は上方に丸く収める。148～155は皿Nである。口径7.4cm～11.9cm、器高1.5cm～2.6cm、148から152は体部が屈曲して立ち上がり口縁部はやや肥厚する。153～155は丸みを帯びた平坦な底部から短く外方に立ち上がり端部を上方に丸く収める。155の端部はやや内傾する。153～155は6期に属す土師器である。

156は灰釉陶器椀である。口径16.9cm。口縁端部は僅かに外反する。157は灰釉陶器皿である。高台径7.6cm。やや外側に踏ん張った貼付け高台がつく。内面は摩滅しており転用硯の可能性はある。

158は緑釉陶器椀である。高台径6.4cm。削り出しの蛇の目高台。胎土は黒色粒子を含み密であるがやや軟質。釉は淡黄色を呈している。

159は須恵器杯Bである。高台径7.7cm。方形の貼付け高台が垂直につく。

160～165は輸入陶磁器白磁椀である。160は口径15.3cm。161は口径16.4cm。ともに玉縁の口縁部である。釉は緑がかった灰白色である。162～165は高台径3.8cm～6.1cm。削り出し高台である。

166は褐釉四耳壺である。肩部とみられる個所に耳を張り付けている。耳の上下に一条の沈線をめぐらす。

167は剣頭文軒平瓦である。平瓦部凹面は布目が残る。平瓦凸部から顎にかけては縦方向のナデ。顎部は横方向のナデを施す。

土坑5

168～170は土師質の土鈴である。頂部に縄紐を通すための孔が穿たれている。169・170には墨書がみられる。

171～193は土師器である。171～175は小型壺である。口径2.0cm～2.5cm、器高2.4cm～2.8cm。手捏ねで成形し端部はナデを施す。176～185は皿Nである。176～180は口径5.0cm～5.8cm、181～185は口径6.9cm～7.3cm。丸みを持った底部から外にわずかに立ち上がる口縁部で、端部はナデを施す。186～190は皿Nである。口径10.5cm～11.0cm。体部が屈曲して立ち上がり、内面には圈線が巡る。端部は丸く収められる。189を除き口縁部に油煙が付着する。186は内外面全体に油煙が付着する。油煙が付着する土器は、器面がもろく剥離する。191は塩壺蓋である。口径6.0cm。器壁は厚く、胎土には石英・長石・チャートなどの砂粒を多く含むが焼成は良好である。192・193は鉢である。192は口径7.9cm、器高3.5cm。193は口径8.7cm、器高4.1cm。全面に丁寧なナデを施し仕上げている。端部は直立しヨコナデにより断面三角形を呈する。

194は土師質土器の皿とみられる。口径7.9cm、器高1.4cm。花卉をあしらっている。胎土は浅黄橙色で精良である。

195は土師質の人形の顔である。型作りで内外面に離れ砂が付着する。橙色を呈し、胎土は密である。

196・197は肥前染付の杯である。196は口径5.1cm、器高3.4cm、高台径2.3cm。197は口径5.3cm、器高3.1cm、高台径2.1cm。

198は輸入青磁椀である。底径5.7cm。背の高い高台を作り出す。外面には鎬連弁、見込みにはスタンプによる文様が施される。高台は露胎である。

199は伊万里椀である。口径10.8cm、器高7.0cm、底径4.5cm。釉は淡い緑がかかった灰白色の釉が施され、高台は露胎である。

200は施釉陶器椀である。口径12.2cm、器高7.5cm、高台径4.5cm。口縁は小さく屈曲し外反する。灰オリーブ色の釉が施される。高台はケズリ出しで、露胎である。肥後又は伊万里と思われるが産地不明。

201は天目椀である。口径11.6cm。胎土は浅黄色を呈し緻密である。体部下半の高台近くまで暗赤褐色の釉が施されている。高台はケズリ出しとみられ、露胎である。

202は施釉陶器鉢である。口径14.0cm、器高8.1cm。ほぼ垂直に立ち上がる体部で、口縁部は丸みを持ち平坦に仕上げている。色調は赤褐色を呈する。備前と思われるが産地不明。

203は施釉陶器注口鉢である。口径20.2cm、器高12.0cm、高台径9.2cm。底部から丸みを持って立ち上がり、口縁部はほぼ直立する。端部は丸く肥厚し外反する。注口は2.0cmの幅で、厚さ0.4cmの板状の粘土を張り付けて作る。胎土は赤褐色で、釉は内外面ともに体部上半をハケで横方向に薄く塗布する。口縁端部には施されないが、注口部は全面に塗布されている。産地は不明である。

204は陶器の皿である。口径22.9cm、器高6.0cm、高台径7.8cm。高台は背が高く垂直につく。口縁部はやや内傾し、端部は面をなす。全面に暗褐色の鉄釉を施す。

205は炮烙の鍋である。口径30.0cm。口縁部は外に開く。口縁部はヨコナデで他は板ナデを施す。

206は瓦質土器の火鉢である。口径30.4cm。

207は土師質土器瓦灯である。底径30.4cm、底端部は平坦である。内面下半はヨコナデとオサエ、上半は板ナデとナデを施す。外面は全面丁寧なミガキを施す。肩部には透かしが入る。頂部の把手接合部の周りに直径2.6cm～4.7cmの円形の段がつく。胎土は精良で色調は橙色を呈す。

208は焼締陶器常滑甕である。口径28.0cm。口縁は短く垂直に立ち上がり、端部は外に屈曲し平坦面を作る。色調は橙色を呈す。

その他の出土遺物

209は緑釉香炉蓋である。肩部に透かしを穿っている。須恵質の胎土で釉はオリーブ灰色を呈する。2面の土坑53から出土した。

210は把手または獣脚と思われる。須恵質の胎土で沈線により模様が描かれている。器面には自

然釉がわずかにかかる。3面掘下げ時に出土した。

211は単弁蓮華紋軒丸瓦である。中房には1+の蓮子を配すと思われる。花卉は大きく角張っている。瓦当裏面にはナデを施す。

金属製品

212～215は土坑5出土。銅製または真鍮である。212は把手と思われる。端部に別部品のピンがつく。213は匙状製品。長さ7.4cm、匙部の幅は1.0cmである。214はキセル吸口、215はキセル雁首である。

石製品

216～219は砥石。216は長さ27.2cm、幅6.3cm、厚さ5.5cm。長辺の四面とも使用痕がある。砂岩系の石材である。1面の土坑17から出土した。217・218は厚さ0.8～1.2cm。使用により摩耗が著しいものと思われる。溝33出土。219は厚さ1.7cm。217・218に比べ摩耗はしていない。一面にのみ使用痕が著しく残る。2面の構土坑35から出土した。

220～223は滑石製羽釜である。220・221は同一個体。口径19.9cm、底径11.6cm。222は口径23.4cm、器高10.3cm、底径18.8cm。223は口径20.2cm。外面はケズリ痕を明瞭に残す。内面は研磨されているが223は内面に使用痕とみられる摩擦痕がみられる。220～222は土坑38出土。223は2面掘下げ中に出土した。

224・225は石臼。224は径20.0cm、高さ7.2cm、皿面での軸穴の径2.5cm、臼面での軸穴の径2.2cm、重さ1.8kgを測る。軸穴は臼面のほぼ中心に穿たれる。臼面は軸穴を中心に八分画10～12溝式で、主溝・副溝ともに臼面周縁にまで達し、深くシャープに刻まれている。側面中央に一辺1.8cm、奥行き2.9cmの方形の挽き木孔を穿つ。石材は不明である。茶臼の上臼である。225は受け皿の復元径38.8cm。臼面の径19.6cm、受け皿の幅7.5cm以上、受け皿から臼面までの高さ4.2cm、受け皿の深さ2.2cm以上、底部径31.8cm、高さ9.5cm、脚高3.2cmを測る。軸穴は、臼面のほぼ中央に穿たれ一辺1.5cm以上の方形を呈している。臼面は軸穴を中心に八分画10～11溝式と思われる。主溝・副溝ともに臼面周縁にまで達し、深くシャープに刻まれている。茶臼の下臼で224とセットになるとみられる。共に重機掘削中の採集。

第Ⅳ章 まとめ

1 遺構の変遷

溝88などから出土した土師器は1 C段階と3 A段階にあたる2時期の遺物が出土している。溝66は3 Bから3 C段階にあたる。土坑34・67は7 C段階、堀77、溝33、土坑36が8段階、土坑40が8～9 A段階、土坑5が11 C段階に比定される。遺物の量がさほど多くなく破片が多いため遺物の詳細な時期は不明な点が多い。

平安時代

溝88 溝心は六条三坊十六町の一行と二行を画する想定座標軸から東に1.5mの位置にある南北溝である。溝幅1.0m～1.65mあり、宅地内を画す溝としては大きすぎると思えるが、五条大路築地心を越えて北に延びないことから条坊に規制された遺構であると想定できる。出土遺物から2時期が想定できるが、埋土は単層であり平安時代中期3段階以降に1 C段階の遺構を削平して埋没したものと考えられる。

溝66 延喜式『京程』によれば大路は築地心から3尺(0.9m)、犬行5尺(1.5m)、溝心まで2尺(0.6m)とあり、大路築地心から側溝心までの心々間10尺(3.0m)である。五条大路南築地心想定ラインから北に2.4mの位置で南肩を検出している溝66は京程の記載に合致し、五条大路南側溝とみてよいであろう。

南北朝から室町時代

土坑34・67 土坑34からは糸切の土師器(図版2-85～88)が、土坑67からは器形が土師器碗Aのようなプロポーションをした薄手の須恵器(図版3-98・99)が出土している。共に搬入品とみられ、室町時代における調査地の性格を考えるうえで重要な資料になると思われる。糸切の土師器は、平安京左京五条二坊八町の井戸で、朝顔形に開く糸切の碗とともに出土しており、⁽¹⁾ 相伴する遺物から11世紀後半の時期に比定している。土坑34は14世紀前半とみられ時期が異なり単純に比較できない。土坑67の須恵器とともに搬入された遺物の集成と検討が必要である。

溝33 平安時代の溝66の上層に位置する。平安時代と変わらない位置で室町時代の五条大路南側溝を検出した。平安時代後期から鎌倉時代の五条大路南側溝の変遷は今回の調査では明らかとなっていない。調査地の東方に位置する既往調査17では、当該期の五条大路南側溝について「路面内に位置する土坑047SXの存在から、京Ⅷ期中末には大路を通行する人々の往来が減り、巷所化が始まっていたことが明らかである」として、道路部分に宅地を広げる巷所化を指摘している。

桃山から江戸時代

桃山時代の遺構は検出していない。江戸時代中頃11 C段階の土坑を検出しただけで、江戸時代の遺構も少ない。検出した1面の遺構のうち井戸は花崗岩の切り石による井戸、花崗岩の切り石の表面を漆喰により目張りした井戸と、漆喰による井筒を持つ井戸を検出したが、すべて幕末から現代にいたるものでビール瓶、ビニール傘などが出土している。

2 五条東洞院御所について

左京六条三坊十六町は平安時代後期、大納言藤原邦綱の邸宅を高倉天皇の里内裏とし、治承4(1180)年、安徳天皇も御所とした五条東洞院御所に推定される場所である。安徳天皇は福原遷都を挟み再度御所としている。寿永2(1183)年、後白河法皇が木曾義仲により、この東洞院第に幽閉された。平家滅亡後は摂政藤原基通の邸宅となる。このように左京六条三坊十六町の地は、平安時代末期に政治の表舞台に立つ重要な地域であった。

太田静六の研究による五条東洞院御所の復元では、十六町北西部に東宮御所が想定されている。今回の調査では、該当する平安時代後期から鎌倉時代の遺構の検出はなかった。わずかに堀77から当該期の土師器、輸入陶磁器などが出土しているに過ぎず、東洞院御所に係る遺構の確認はできなかった。また、太郎焼亡に係るような焼土層の確認もしていない。

3 堀77について

調査では、室町時代の遺構と遺物が最も多く検出された。これは室町時代、酒屋をはじめとして各種の商工業地域として栄えた下京の様子を表しているものとしてとらえることができる。しかし、下京には「下京惣構」が設けられそれは調査地の北、因幡堂の南側に構えが造られたとされている。つまり下京惣構は五条大路を南限として構えられており、調査地は構えの外側に位置することになる。

従来発掘調査で確認されている惣構の堀としては、左京一条三坊二町の堀⁽²⁾や、下京惣構の堀とされる市立洛央小学校の調査例⁽³⁾があるが、それらは幅約6m、深さ2m以上の規模を持ち、今回検出の堀77の倍以上の規模を持つ。

近隣での堀状の遺構の調査例では、第2章-2、既往の調査の調査13と調査17がある。

調査13⁽⁴⁾では、幅1.2m、深さ1m、U字状を呈する東西方向の堀と、同規模で東西堀に直行する南北方向の堀を検出している。時期は室町時代末で、南北方向の堀は東洞院通の西側で検出し、東西方向の堀は、六条坊門小路の路面南側で検出している。T字型に交わり、埋土・出土遺物から堀は共存していたとしている。また直後の安土桃山時代には整地層で覆われ、東洞院・六条坊門や堀は姿を消している。

調査17⁽⁵⁾では、調査区北の五条大路側から南に折れる堀が検出されている。堀の幅は1.3m~1.5m、深さは0.7m~1.2mの規模を持つ。堆積土の状況から少なくとも1回の掘り直しが確認でき、掘り直し前は逆台形、掘り直し後はV字を呈し、室町時代末の時期にあてられる。報告では天文法華の乱の防備のために掘られた堀の一つではないかとして、惣構の外に存在した本圀寺などと同じく下京惣構の外に造られた小規模な社寺ではと想定している。

これらのように下京惣構の堀というより戦国期という時代背景から社寺や町屋の自主防衛的な小規模な構えの存在が推定される。

今回調査した堀77は、出土遺物から最も新しい遺物が8段階の土師器であり室町時代後期までは下がらない。埋土からの出土であり堀を埋めた時期をあらわす遺物ではないので堀77の開削し

た時期、埋めた時期は不明であるが、他の遺構との重複関係や上層の包含層などから室町時代の前半・南北朝期であろうと思われるが、近隣での成果の蓄積を待ちたい。

今回の調査では良好な室町時代の遺構の残存状態を確認することができたことが最大の成果であった。調査では、平安時代後期から南北朝時代まで、調査地における遺構が空白となる。五条東洞院御所の存在した時期であり、どのような空間として土地利用されていたのか今後の課題としたい。

参考文献

高橋康夫『京都中世都市研究』 思文閣出版 1983年

山田邦和『京都都市史の研究』 吉川弘文館 2009年

(注)

- (1) 「左京五条二坊八町(93HL39)」『京都市内遺跡立会調査報告—平成5年度—』京都市文化市民局 1997年
- (2) 「平安京跡(左京一条三坊二町)」『京都府遺跡調査報告書 第176冊』公益財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター 2018年
- (3) 「8 平安京左京五条四坊」『平成4年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人 京都市埋蔵文化財研究所 1995年
- (4) 「14 平安京左京六条三坊」『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人 京都市埋蔵文化財研究所 1991年
- (5) 「平安京左京六条四坊八町跡 京都市下京区松原通堺町東入る杉屋町288-1、289-1・2他の調査」株式会社四門 2020年

表4 遺物計測表

掲載番号	器種	器形	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色調・胎土	備考
1	土師器	甕	溝 66	14.8			10YR7/3 にぶい黄橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英・雲母・赤色粒子を含む	古墳時代
2	土師器	壺	溝 66			2.9	10YR7/3 にぶい黄橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・雲母・赤色粒子を含む	古墳時代
3	土師器	皿 Ac	溝 88	15.3	(2.0)		7.5YR7/6 橙色 0.5 mm以下の長石・雲母を含む	
4	土師器	皿 Ac	溝 88	18.6	(1.8)		7.5YR7/4 にぶい橙色 1.0 mm以下の長石・石英を含む	
5	土師器	杯 A	溝 88	16.4	(3.6)		7.5YR7/8 黄橙色 雲母含む	
6	土師器	杯 A	溝 88	17.4	(3.1)		7.5YR7/6 橙色 1.0 mm以下の長石・石英・赤色粒子を含む	
7	土師器	杯 B	溝 88	15.0	3.8	7.4	5YR6/6 橙色 0.5 mm以下の長石を含む	台部貼付け
8	土師器	椀 A	溝 88	12.5	3.1		10YR7/4 にぶい黄橙色 2.0 mm以下の長石・石英を含む	
9	土師器	椀 A	溝 88	12.6	(2.9)		5YR7/6 橙色 0.5 mm以下の長石・雲母を含む	
10	土師器	椀 A	溝 88	13.3	(3.2)		5YR7/6 橙色 1.0 mm以下の長石・石英を含む	
11	土師器	椀 A	溝 88	13.3	(3.2)		5YR7/8 橙色 0.5 mm以下の長石・石英・雲母を含む	
12	須恵器	蓋	溝 88	14.2			N6/0 灰色 1.0 mm以下の長石・石英を含む	
13	須恵器	杯 B	溝 88			8.5	N3/0 暗灰色 1.0 mm以下の長石を含む	貼付け高台
14	須恵器	杯 B	溝 88			9.1	2.5Y8/1 灰白色 0.5 mm以下の石英を含む 焼成軟	貼付け高台
15	須恵器	杯 B	溝 88			10.2	N4/0 灰色 0.5 mm以下の長石を含む	底部ヘラオコシ 貼付け高台
16	須恵器	杯 B	溝 88	14.8	5.6	10.8	5Y7/1 灰白色 1.0 mm以下の長石を含む	貼付け高台
17	須恵器	椀	溝 88	14.8			N3/0 暗灰色 1.0 mm以下の長石を含む	
18	須恵器	鉢	溝 88	15.8			N4/0 灰色 1.5 mm以下の長石を含む	
19	須恵器	壺	溝 88			8.7	N3/0 暗灰色 1.0 mm以下のチャート・長石を含む	底部は回転糸切
20	須恵器	瓶子	溝 88			3.9	N3/0 暗灰色 1.0 mm以下の長石を含む	底部回転糸切
21	緑釉陶器	椀	溝 88			6.2	(釉) 10Y6/2 オリーブ灰色 (胎) N5/0 灰色 0.5 mm以下の長石を含む 須恵質	ケズリ出し高台。 高台部含め全面に施釉
22	緑釉陶器	皿	溝 88			6.8	(釉) 2.5GY6/1 オリーブ (胎) N6/0 灰色 1.0 mm以下の長石を含む 須恵質	ケズリ出し高台 高台部含め全面に施釉
23	緑釉陶器	壺	溝 88			16.2	(釉) 5Y7/4 浅黄色 (胎) 2.5Y8/2 灰白色 0.5 mm以下のチャート・石英・赤色を含む	外面にのみ施釉
24	黒色土器 A	椀 A	溝 88		3.1		10YR5/4 にぶい黄褐色 2.5 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
25	黒色土器 A	椀	溝 88			11.8	7.5YR6/4 にぶい橙色 3.05 mm以下の長石・雲母・赤色粒子を含む	貼付け高台
26	灰釉陶器	皿	溝 88			7.6	(釉) 5GY7/1 明オリーブ灰色 (胎) N7/0 灰 0.5 mm以下の長石を含む	貼付け高台
27	灰釉陶器	椀	溝 88			8.3	(釉) 3GY7/10 若草色 (胎) 2.5Y7/1 灰白色 1.0 mm以下の長石を含む	貼付け高台
28	土師器	椀	溝 88				7.5YR7/4 にぶい橙色 1.0 mm以下の長石を含む	
29	黒色土器 A	椀	溝 88			6.5	2.5YR5/6 明赤褐色 0.5 mm以下の長石・雲母を含む	貼付け高台
30	黒色土器 A	椀	溝 88	15.4			7.5YR7/4 にぶい橙色 1.5 mm以下の長石・雲母・赤色粒子を含む	

掲載 番号	器種	器形	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色調・胎土	備考
31	黒色土器 A	椀	溝 88	16.5			7.5YR7/4 にぶい橙色 1.0 mm以下の長石・石英・雲母・赤色粒子を含む	
32	灰釉陶器	椀	溝 88	13.7			(胎) N6/0 灰色 0.5 mm以下の長石を含む	
33	灰釉陶器	椀	溝 88			8.2	(釉) 3GY7/10 一部透明 (胎) N7/0 灰白色 0.5 mm以下の長石を含む	貼付け高台
34	緑釉陶器	小壺	溝 88	4.1			(釉) 3GY7/10 若草色 (胎) 2.5Y8/2 灰白色 0.5 mm以下の長石を含む	口縁部内面から外面施釉
35	緑釉陶器	皿	溝 88			7.8	(釉) 3GY7/10 若草色 (胎) 2.5Y7/2 灰黄色 0.5 mm以下のチャート・石英を含む	底部含め全面に施釉
36	瓦		溝 66	長さ (34.0)	幅 14.2	厚さ 7.8	7.5YR3/1 黒褐色 チャート・長石を多く含む	
37	土師器	皿	溝 66				7.5YR7/6 橙色 0.5 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
38	土師器	杯 A	溝 66	14.8			7.5YR7/6 橙色 0.5 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
39	黒色土器 A	椀	溝 66			8.0	2.5YR5/6 明赤褐色 0.5 mm以下のチャート・長石・石英・雲母を含む	
40	黒色土器 A	椀	溝 66				7.5YR6/4 にぶい橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	体部外面ケズリ
41	黒色土器 B	椀	溝 66	15.8			N2/0 黒色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
42	須恵器	蓋	溝 66	12.8			N5/0 灰色 0.5 mm以下のチャート・長石・石英・黒色粒子を含む	
43	須恵器	皿	溝 66			6.5	N5/0 灰色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	貼付け高台
44	緑釉陶器	皿	溝 66			6.8	(釉) 5Y7/1 灰白色 N6/0 灰 0.5 mm以下のチャート・長石・石英を含む	削り出し高台
45	緑釉陶器	皿	溝 66	14.4	3.2	6.8	(釉) 5Y7/1 灰白色 N7/0 灰 0.5 mm以下のチャート・長石・石英を含む	貼付け高台
46	緑釉陶器	皿	溝 66	15.6	2.7	7.2	(釉) 2.5GY7/1 明オリーブ灰色 (胎) 10YR7/2 にぶい黄橙色 1.0 mm以下の長石を含む	ケズリ出し高台
47	灰釉陶器		溝 66				(釉) 7.5YR7/2 灰白色 (胎) N7/0 灰白色 0.5 mm以下のチャート・長石・石英を含む	貼付け高台 底部外面に墨書『春』
48	灰釉陶器		溝 66				2.5Y8/1 灰白色 微細なチャート・長石・石英を含む	底部外面とみられる個所に墨痕 解読不明
49	灰釉陶器	皿	溝 66	12.4	2.8	6.4	(釉) 5Y7/2 灰白色 10YR7/1 灰白色 2.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	貼付け高台
50	灰釉陶器	皿	溝 66	14.4	2.2	6.0	(釉) 色 N7/0 灰白色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	貼付け高台
51	灰釉陶器	段皿	溝 66	18.6			2.5Y8/1 灰白色 0.5 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
52	灰釉陶器	小椀	溝 66			5.0	(釉) 10Y7/2 灰白色 (胎) 10YR8/1 灰白色 1.0 mm以下の長石・石英・黒色粒子を含む	貼付け高台
53	灰釉陶器	壺	溝 66	4.8			(釉) 10Y7/2 灰白色・10Y6/2 オリーブ灰色 (胎) 10YR7/2 にぶい黄橙色 3.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
54	灰釉陶器	壺	溝 66			4.8	(釉) 10Y6/2 オリーブ灰色 (胎) 10YR8/1 灰白色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英・黒色粒子を含む	貼付け高台
55	須恵器	甕	溝 66	17.8			N5/0 灰色 1.5 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
56	須恵器	円面硯	溝 66	11.4			N5/0 灰色 0.5 mm以下のチャート・長石・石英を含む・雲母含む	
57	土師器	皿 Sh	土坑 34	6.2	1.9		10YR8/3 浅黄橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	

掲載 番号	器種	器形	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色調・胎土	備考
58	土師器	皿 Sh	土坑 34	6.3	1.9		10YR8/3 浅黄橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
59	土師器	皿 Sh	土坑 34	6.7	2.1		10YR8/2 灰白色 2.0 mm以下のチャート・長石・石英・雲母を含む	
60	土師器	皿 Sh	土坑 34	6.8	1.8		10YR8/2 灰白色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
61	土師器	皿 Sh	土坑 34	6.9	1.9		10YR8/2 灰白色 2.5 mm以下の長石・石英・赤色粒子を含む	
62	土師器	皿 Sh	土坑 34	7.1	2.0		10YR8/1 灰白色 1.0 mm以下のチャート・長石、6.0 mm程の角礫を含む	
63	土師器	皿 Sh	土坑 34	7.3	1.8		2.5Y8/1 灰白色 1.0 mm以下の長石・黒色粒子を含む	
64	土師器	皿 Sh	土坑 34	7.1	1.8		10YR8/2 灰白色 0.5 mm以下の石英を含む	
65	土師器	皿 Sh	土坑 34	7.5	2.1		5Y8/1 灰白色 1.0 mm以下の長石・黒色粒子を含む	
66	土師器	皿 Sh	土坑 34	8.0	2.0		10YR8/3 浅黄橙色 0.5 mm以下の石英を含む	
67	土師器	皿 S	土坑 34	10.2	2.5		10YR8/3 浅黄橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
68	土師器	皿 S	土坑 34	11.4	2.9		10YR8/3 浅黄橙色 1.5 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
69	土師器	皿 S	土坑 34	11.5	2.8		10YR8/3 浅黄橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英・黒色粒子を含む	
70	土師器	皿 S	土坑 34	11.7	2.7		10YR8/3 浅黄橙色 2.0 mm以下のチャート・長石・石英・黒色粒子を含む	
71	土師器	皿 S	土坑 34	11.8	(2.3)		10YR8/3 浅黄橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英・黒色粒子を含む	
72	土師器	皿 S	土坑 34	11.8	2.9		10YR8/3 浅黄橙色 2.0 mm以下のチャート・長石・石英・黒色粒子を含む	
73	土師器	皿 S	土坑 34	12.0	3.0		2.5Y8/1 灰白色 1.0 mm以下のチャート・雲母、角礫を含む	
74	土師器	皿 S	土坑 34	12.4	3.0		2.5Y8/1 灰白色 1.5 mm以下の長石を含む	
75	土師器	皿 N	土坑 34	7.4	1.5		7.5YR7/6 橙色 1.5 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
76	土師器	皿 N	土坑 34	8.1	1.3		7.5YR7/4 におい橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英・雲母・赤色粒子を含む	
77	土師器	皿 N	土坑 34	8.3	1.6		7.5YR6/4 におい橙色 1.5 mm以下のチャート・長石・石英・雲母・赤色粒子を含む	
78	土師器	皿 N	土坑 34	8.4	1.3		10YR6/3 におい黄橙色 2.0 mm以下のチャート・長石・石英・雲母・赤色粒子を含む	
79	土師器	皿 N	土坑 34	8.5	1.4		7.5YR6/4 におい橙色 3.0 mm以下の長石・赤色粒子を含む	
80	土師器	皿 N	土坑 34	10.3	2.2		10YR6/4 におい黄橙色 0.5 mm以下の長石・石英・雲母を含む	
81	土師器	皿 N	土坑 34	11.0	2.2		5Y6/6 橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
82	土師器	皿 N	土坑 34	11.0	2.1		7.5YR6/6 橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英・赤色粒子を含む	
83	土師器	皿 N	土坑 34	11.5	2.3		7.5YR7/4 におい橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英・雲母を含む	
84	土師器	皿 N	土坑 34	13.0	2.0		7.5YR5/4 におい褐色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英・雲母を含む	
85	土師器	皿	土坑 34				2.5Y8/2 灰白色 0.5 mm以下の長石・石英を含む	底部糸切 ロクロ成型 搬入品

掲載 番号	器種	器形	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色調・胎土	備考
86	土師器	皿	土坑 34	7.0	1.0	4.6	2.5Y8/2 灰白色 0.5 mm以下の長石・石英を含む	底部糸切 ロクロ成型 搬入品
87	土師器	皿	土坑 34			6.8	10YR8/2 灰白色 0.5 mm以下の長石を含む	底部糸切 ロクロ成型 搬入品
88	土師器	皿	土坑 34	12.4	2.4	9.6	10YR8/3 浅黄橙色 0.5 mm以下の長石・石英を含む	底部糸切 ロクロ成型 搬入品
89	緑釉陶器	椀	土坑 34	13.7			(釉) 3GY7/10 若草色 (胎) 7.5YR8/4 浅黄橙色 0.5 mm以下の長石を含む	
90	輸入陶磁器	青磁椀	土坑 34	15.0			(釉) 7.5GY7/1 明緑灰色 (胎) N6/0 灰色 緻密	
91	輸入陶磁器	青磁椀	土坑 34			5.3	(釉) 7.5Y6/2 灰オリーブ色 (胎) N6/0 0.5 mm以下の長石を含む	
92	土師器	皿	土坑 34				7.5YR8/2 灰白色 0.5 mm以下の長石を含む	墨書あり
93	瓦器	ミニチュア羽釜	土坑 34	4.6			(胎) N4/0 灰色 0.5 mm以下の長石を含む	
94	須恵器	鉢	土坑 34	24.6	9.5	8.8	N5/0 灰色 3.0 mm以下のチャート・長石を含む	底部糸切
95	瓦器	鍋	土坑 34	23.7	(8.6)		2.5Y7/1 灰白色 0.5 mm以下の石英・赤色粒子を含む	
96	焼締陶器	甕	土坑 34	39.8			2.5Y5/3 におい赤褐色 チャート・長石・石英を多く含みやや粗い	常滑
97	焼締陶器		土坑 34			15.2	2.5Y4/3 におい赤褐色 チャート・長石・石英を多く含みやや粗い	常滑
98	須恵器	椀	土坑 67	10.8	3.6	4.6	N8/0 灰白色	口縁部銀化 搬入品
99	須恵器	椀	土坑 67	10.8	3.4	4.5	N8/0 灰白色	口縁部銀化 搬入品
100	土師器	皿 S	土坑 67	6.7	2.1		10YR8/3 浅黄橙色	
101	土師器	皿 S	土坑 67	7.4	2.0		10YR8/2 灰白色	
102	土師器	皿 S	土坑 67	11.2	(2.9)		N5/0 灰色	胎土精良
103	土師器	皿 N	土坑 67	8.4	1.7		10YR8/2 灰白色	
104	土師器	皿 N	土坑 67	10.8	2.1		7.5YR7/4 におい橙色	
105	土師器	皿 N	土坑 67	10.6	2.1		7.5YR7/4 におい橙色	
106	土師器	皿 S h	土坑 36	6.8	1.8		7.5YR8/2 灰白色 1.0 mm以下の長石・石英を含む	
107	土師器	皿 S h	土坑 36	7.0	1.9		10YR8/3 浅黄橙色 1.5 mm以下のチャート・長石を含む	
108	土師器	皿 S	土坑 36	11.7	3.2		7.5YR8/2 灰白色 1.0 mm以下の長石・石英を含む	
109	土師器	皿 S	土坑 36	11.9	3.0		10YR8/3 浅黄橙色 1.5 mm以下のチャート・長石を含む	
110	土師器	皿 S	土坑 36	11.9	3.2		7.5YR8/4 浅黄橙色 3.0 mm以下のチャートを含む	
111	土師器	皿 S	土坑 36	12.0	2.7		7.5YR8/2 灰白色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
112	土師器	皿 S	土坑 36	12.1	3.3		7.5YR8/4 浅黄橙色 1.0 mm以下の長石・赤色粒子を含む	
113	土師器	皿 N	土坑 36	9.8	1.9		10YR7/3 におい黄橙色 2.5 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
114	土師器	皿 N	土坑 36	10.4	1.8		10YR7/4 におい黄橙色 2.5 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
115	須恵器	鉢	土坑 36				N5/0 灰色 3.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
116	土師器	皿 S h	溝 33	7.1	2.0		7.5YR8/2 灰白色 0.5 mm以下の雲母・赤色粒子を含む	
117	土師器	皿 S h	溝 33	7.2	2.0		7.5YR8/2 灰白色 0.5 mm以下のチャートを含む	
118	土師器	皿 S	溝 33	11.6			7.5YR8/4 浅黄橙色 0.5 mm以下の長石・石英を含む	
119	土師器	皿 S	溝 33	13.7			10YR8/3 浅黄橙色 0.5 mm以下のチャートを含む	

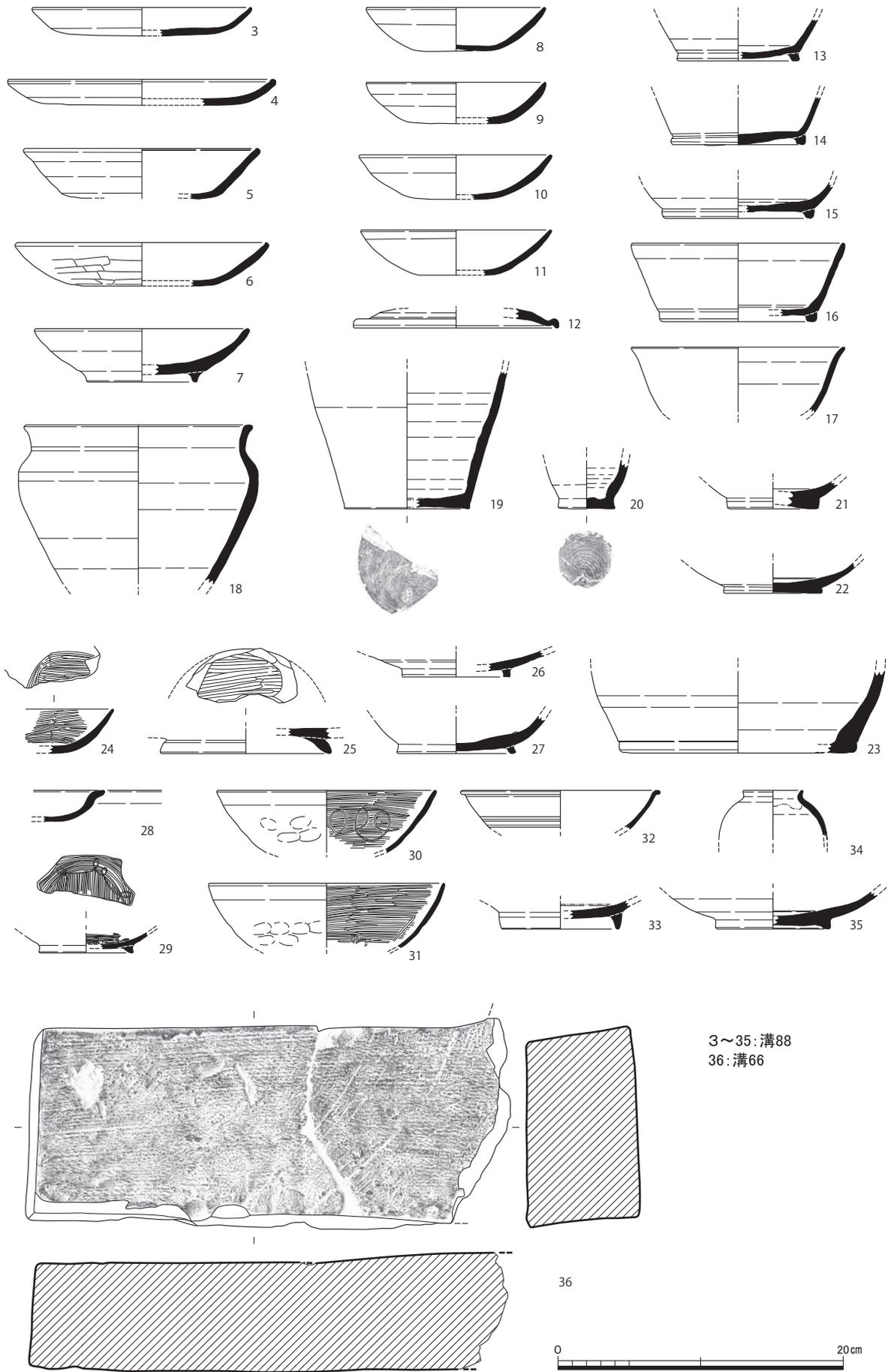
掲載 番号	器種	器形	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色調・胎土	備考
120	土師器	皿 N	溝 33	10.7	2.0		7.5YR8/4 浅黄橙色 1.0 mm以下の石英・雲母含む	
121	土師質	鉢	溝 33	6.7	4.3	8.8	10YR7/3 にぶい黄橙色 1.0 mm以下の長石・石英・雲母・赤色粒子を含む	内面に炭 混入品？
122	施釉陶器	皿	溝 33			13.0	(釉) 7.5Y6/3 オリーブ黄色 10YR7/1 灰白色 1.0 mm以下のチャート・長石を含む	古瀬戸
123	須恵器	鉢	溝 33	28.0			10YR7/1 灰白色 2.0 mm以下の長石・黒色粒子を含む	
124	焼締陶器	播鉢	溝 33	28.2			器面 2.5YR4/2 灰赤色 4.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	備前？
125	瓦質	火鉢	溝 33		15.4		器面 N4/0 灰色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
126	瓦	唐草文軒平瓦	溝 33			瓦当厚 4.2	N3/0 暗灰色 1.0 mm以下の長石・石英を含む	
127	土師器	皿 Sh	土坑 40	6.8	1.9		7.5YR8/3 浅橙色 1.5 mm以下のチャート・長石・石英含む	
128	土師器	皿 Sh	土坑 40	7.0	1.8		7.5YR7/4 にぶい橙色 1.5 mm以下のチャート・長石・石英含む	
129	土師器	皿 S	土坑 40	8.0	2.4		7.5YR8/4 浅橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英・雲母含む	
130	土師器	皿 S	土坑 40	11.0	3.3		10YR8/2 灰白色 0.5 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
131	土師器	皿 S	土坑 40	11.4	2.9		7.5YR8/3 浅橙色 0.5 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
132	土師器	皿 S	土坑 40	11.5	3.3		10YR8/2 灰白色 2.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
133	土師器	皿 S	土坑 40	11.8	3.0		7.5YR8/4 浅橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英・雲母を含む	
134	土師器	皿 S	土坑 40	12.2	3.3		7.5YR8/2 灰白色 0.8 mm以下のチャート・長石・石英・赤色を含む	
135	土師器	皿 S	土坑 40	13.6	3.2		10YR8/3 浅黄橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
136	土師器	皿 S	土坑 40	14.8	3.7		10YR8/2 灰白色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英・赤色を含む	
137	土師器	皿 S	土坑 40	8.9	3.3		10YR8/2 灰白色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
138	土師器	皿 S	土坑 40	19.8	(4.4)		10YR8/3 浅黄橙色 4.0 mm以下のチャート・長石・石英・雲母を含む	
139	土師器	皿 S	土坑 40	20.0	4.2		10YR8/2 灰白色 0.8 mm以下のチャート・長石・石英・赤色を含む	
140	土師器	皿 N	土坑 40	7.8	1.7		7.5YR8/6 浅橙色 2.5 mm以下のチャート・長石・石英・雲母含む	
141	土師器	皿 N	土坑 40	8.0	1.6		7.5YR7/4 にぶい橙色 2.0 mm以下のチャート・長石・石英・雲母を含む	
142	土師器	皿 N	土坑 40	9.4	2.0		7.5YR7/4 にぶい橙色 4.0 mm以下のチャート・長石・石英・雲母を含む	
143	施釉陶器	天目椀	土坑 40	11.2	5.1	4.1	(釉) 7.5YR2/2 黒褐色 10YR8/1 灰白色 1 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
144	土師器	皿 Sh	溝 77	6.5	2.2		7.5YR7/4 にぶい橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
145	土師器	皿 S	溝 77	10.6	2.8		10YR8/2 灰白色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
146	土師器	皿 S	溝 77	11.9	2.1		10YR8/2 灰白色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
147	土師器	皿 S	溝 77	12.9	3.5		10YR8/2 灰白色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	

掲載 番号	器種	器形	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色調・胎土	備考
148	土師器	皿 N	溝 77	7.4	1.8		7.5YR7/4 にぶい橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
149	土師器	皿 N	溝 77	7.5	1.6		7.5YR7/4 にぶい橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英・赤色粒子を含む	
150	土師器	皿 N	溝 77	7.7	1.5		7.5YR7/4 にぶい橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
151	土師器	皿 N	溝 77	8.3	2.1		7.5YR8/3 浅黄橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
152	土師器	皿 N	溝 77	9.2	1.9		7.5YR7/4 にぶい橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
153	土師器	皿 N	溝 77	7.8	1.7		7.5YR7/4 にぶい橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英・雲母・赤色粒子を含む	平安末から鎌倉
154	土師器	皿 N	溝 77	8.6	1.5		7.5YR7/4 にぶい橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	平安末から鎌倉
155	土師器	皿 N	溝 77	11.9	(2.6)		7.5YR7/4 にぶい橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	6期 平安末から鎌倉
156	灰釉陶器	椀	溝 77	16.9			(釉) 2.5Y7/1 灰白色 (胎) 2.5Y6/1 黄灰色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	平安末から鎌倉
157	灰釉陶器	皿	溝 77			7.6	(釉) 7.5Y7/2 灰白色 (胎) 5Y7/1 灰白色 2.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	貼付け高台 平安末から鎌倉
158	緑釉陶器	椀	溝 77			6.4	(釉) 5Y8/3 淡黄色 10YR8/2 灰白色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英・黒色粒子を含む	ケズリ出し高台 (蛇の目) 平安末から鎌倉
159	須恵器	杯	溝 77			7.7	N5/0 灰色 1.0 mm以下の長石・石英を含む	貼付け高台 平安末から鎌倉
160	輸入陶磁器	白磁椀	溝 77	15.3			(釉) 7.5Y7/1 灰白色 5Y5/1 灰白色 1.0 mm以下の長石・石英を含む	平安末から鎌倉
161	輸入陶磁器	白磁椀	溝 77	16.4			(釉) 5Y7/1 灰白色 5Y7/1 灰白色 0.5 mm以下の長石・石英を含む	平安末から鎌倉
162	輸入陶磁器	白磁椀	溝 77			3.8	(釉) 7.5Y7/1 灰白色 N8/0 灰白色 0.5 mm以下の長石・石英・黒色粒子を含む	ケズリ出し高台 平安末から鎌倉
163	輸入陶磁器	白磁椀	溝 77			5.9	(釉) 2.5Y8/2 灰白色 2.5Y8/2 灰白色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	ケズリ出し高台 平安末から鎌倉
164	輸入陶磁器	白磁椀	溝 77			6.0	(釉) 7.5Y7/2 灰白色 N7/0 灰白色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	ケズリ出し高台 平安末から鎌倉
165	輸入陶磁器	白磁椀	溝 77			6.1	(釉) 5Y7/2 灰白色 2.5Y8/3 灰白色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	平安末から鎌倉
166	輸入陶磁器	褐釉陶器四耳壺	溝 77				(釉) 5Y4/2 灰オリーブ色 5Y5/1 灰色 1.0 mm以下の長石・石英・黒色粒子を含む	平安末から鎌倉
167	瓦	剣頭文軒平瓦	溝 77			瓦当厚 3.3	2.5Y6/1 灰黄色 長石・石英・雲母を含む	平安末から鎌倉
168	土製品	土鈴	土坑 5	長さ (1.7)	幅 3.2	高さ (2.9)	10YR8/2 灰白色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
169	土製品	土鈴	土坑 5	長さ (3.0)	幅 (2.1)	高さ (2.6)	10YR8/2 灰白色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	上面に墨書
170	土製品	土鈴	土坑 5	長さ (2.8)	幅 (3.2)	高さ 4.0	10YR8/2 灰白色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	上面に墨書
171	土師器	壺	土坑 5	2.0	2.5	2.2	10YR8/2 灰白色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
172	土師器	壺	土坑 5	2.1	2.8	1.0	10YR7/3 にぶい黄橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
173	土師器	壺	土坑 5	2.1	2.4	2.2	10YR7/2 にぶい黄橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
174	土師器	壺	土坑 5	2.2	2.4	2.2	10YR8/2 灰白色 2.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
175	土師器	壺	土坑 5	2.5	2.5	2.2	10YR7/2 にぶい黄橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
176	土師器	皿 N	土坑 5	5.0	1.4		7.5YR7/4 にぶい橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	

掲載 番号	器種	器形	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色調・胎土	備考
177	土師器	皿 N	土坑 5	5.2	1.2		7.5YR7/4 にぶい橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英・雲母を含む	
178	土師器	皿 N	土坑 5	5.5	1.1		7.5YR7/4 にぶい橙色 5.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
179	土師器	皿 N	土坑 5	5.6	1.3		7.5YR7/4 にぶい橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英・雲母を含む	
180	土師器	皿 N	土坑 5	5.8	1.3		7.5YR7/4 にぶい橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
181	土師器	皿 N	土坑 5	6.9	1.7		7.5YR7/4 にぶい橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英・雲母を含む	
182	土師器	皿 N	土坑 5	6.9	1.4		7.5YR7/4 にぶい橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英・雲母を含む	
183	土師器	皿 N	土坑 5	7.0	1.7		7.5YR7/4 にぶい橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
184	土師器	皿 N	土坑 5	7.1	1.5		7.5YR7/4 にぶい橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英・雲母を含む	
185	土師器	皿 N	土坑 5	7.3	1.7		7.5YR7/4 にぶい橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英・雲母を含む	
186	土師器	皿 S	土坑 5	10.5	2.2		7.5YR7/4 にぶい橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	内外綿全体に油煙
187	土師器	皿 S	土坑 5	10.6	2.2		10YR8/2 灰白色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	口縁部に油煙
188	土師器	皿 S	土坑 5	10.7	1.9		10YR8/2 灰白色 2.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	口縁部に油煙
189	土師器	皿 S	土坑 5	10.9	2.1		10YR7/3 にぶい黄橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
190	土師器	皿 S	土坑 5	11.0	2.1		7.5YR7/4 にぶい橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英・赤色粒子を含む	口縁端部に油煙
191	土師質	塩壺蓋	土坑 5	6.0	1.6		5YR6/6 橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
192	土師器	鉢	土坑 5	7.9	3.5		7.5YR8/3 浅黄橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
193	土師器	鉢	土坑 5	8.7	4.1		7.5YR7/3 にぶい橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
194	土師質	皿	土坑 5	7.9	1.4	3.2	10YR8/3 浅黄橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
195	土製品	人形	土坑 5	長さ(5.8)	幅(5.2)	厚さ 1.6	7.5YR7/3 にぶい橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
196	染付	杯	土坑 5	5.1	3.4	2.3	(釉) 呉須 (胎) N8/0 灰白色 緻密	
197	染付	杯	土坑 5	5.3	3.1	2.1	(釉) 呉須 (胎) N8/0 灰白色 緻密	
198	輸入陶磁器	青磁?	土坑 5			5.7	(釉) 10YR6/4 にぶい黄橙色 (胎) 10YR7/4 にぶい黄橙色 1.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
199	施釉陶器	椀	土坑 5	10.8	7.0	4.7	(釉) 10Y8/1 灰白色 (胎) N8/0 灰白色 0.5 mm以下の黒色粒子を含む	伊万里
200	施釉陶器	椀	土坑 5	12.2	7.5	4.5	(釉) 7.5YR5/3 灰オリーブ色 (胎) N8/0 灰色 0.5 mm以下のチャート・長石・石英を含む	肥後?九州系
201	施釉陶器	天目椀	土坑 5	11.6			(釉) 5YR3/3 暗赤褐色 (胎) 10YR8/3 浅黄橙色 1.0 mm以下のチャート・長石を含む	
202	施釉陶器	鉢	土坑 5	12.0	8.1	13.6	7.5YR4/3 にぶい赤褐色 1.0 mm以下のチャート・長石を含む	備前
203	施釉陶器	注口鉢	土坑 5	20.2	12.0	9.2	(釉) N8/0 灰白色 5YR5/3 にぶい赤褐色 1.0 mm以下のチャート・長石含む	ケズリ出し高台

掲載 番号	器種	器形	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	色調・胎土	備考
204	施釉陶器	鎔釉（鉄釉）皿	土坑 5	22.9	6.0	7.8	(釉) 7.5YR3/4 暗褐色・鎔釉 (胎) 10YR7/3 にぶい黄橙色 0.5 mm以下の長石・石英を含む	
205	土師質土器	炮烙鍋鉢	土坑 5	30.0			7.5YR7/3 にぶい橙色 0.5 mm以下のチャート・長石含む	
206	瓦質土器	火鉢	土坑 5	30.4			N3/0 暗灰色 0.5 mm以下のチャート・長石を含む	
207	土師質土器	瓦灯	土坑 5	19.5	(19.1)		5YR7/6 橙色 0.5 mm以下のチャート・長石・石英を含む	肩部に透かし
208	焼締陶器	甕	土坑 5	28.0			2.5YR6/6 橙色 2.0 mm以下のチャート・長石・石英を含む	常滑
209	緑釉陶器	香炉蓋	土坑 53				(釉) 10Y6/2 オリーブ灰色 N6/0 灰色 0.3 mm以下のチャート・長石・石英を含む	
210	須恵質	獣脚?	3面掘下げ	長さ(8.2)	幅(4.5)	厚さ(2.3)	器面 7.5Y8/1 灰白色(自然釉) (胎) N8/0 灰色 4.0 mm程のチャート・長石・石英を含む	
211	瓦	単弁蓮華紋軒丸瓦	3面掘下げ					
212	金属製品	把手・ピン状	土坑 5	長さ 7.1	幅 8.6	厚さ 0.6	重さ 9.9 g	
213	金属製品	匙	土坑 5	長さ 7.4	幅 1.0	厚さ 0.1	重さ 1.0 g	
214	金属製品	煙管雁首	土坑 5	長さ 6.0	幅 1.0		重さ 10.1 g	
215	金属製品	煙管吸口	土坑 5	長さ 5.5	幅 1.0		重さ 3.3 g	
216	石製品	砥石	土坑 17	長さ 27.2	幅 6.3	厚さ 5.5	重さ 149.2 g	
217	石製品	砥石	溝 33		幅 3.9	厚さ 0.6 ～ 0.8	重さ 22.1 g	
218	石製品	砥石	溝 33		幅 2.7	厚さ 1.2	重さ 45.8 g	
219	石製品	砥石	土坑 35	長さ(6.6)	幅 3.0	厚さ 1.7	重さ 66.0 g	
220	石製品	滑石製羽釜	土坑 38	19.9				
221	石製品	滑石製羽釜	土坑 38			11.6		
222	石製品	滑石製羽釜	土坑 38	23.4	10.3	18.8		
223	石製品	滑石製羽釜	2面掘下げ	20.2			重さ 246.0 g	
224	石製品	石臼	重機掘削	20.0	7.2	39.8	重さ 1.8 kg	
225	石製品	石臼	重機掘削	38.8	9.5	31.8	重さ 7.0 kg	

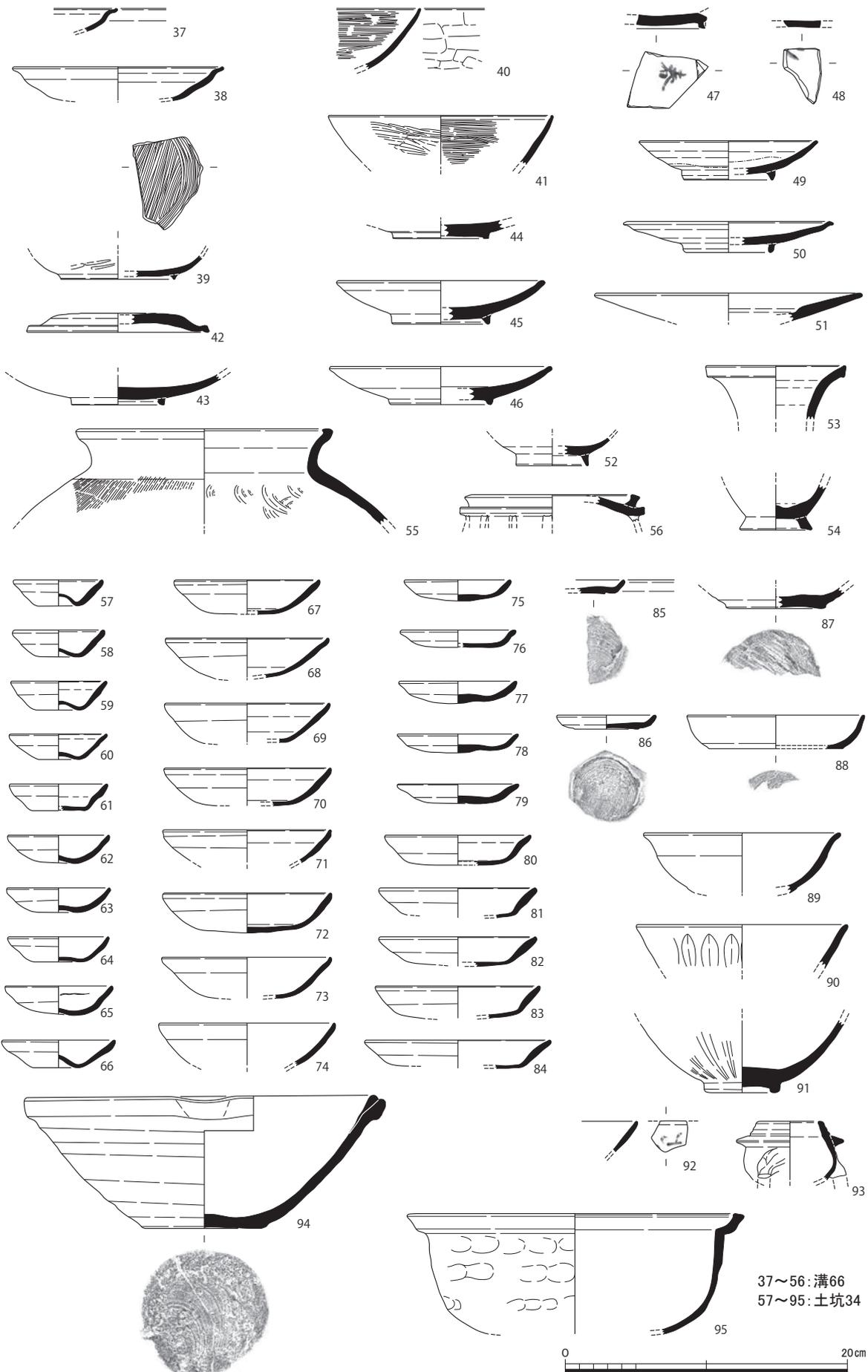
図 版



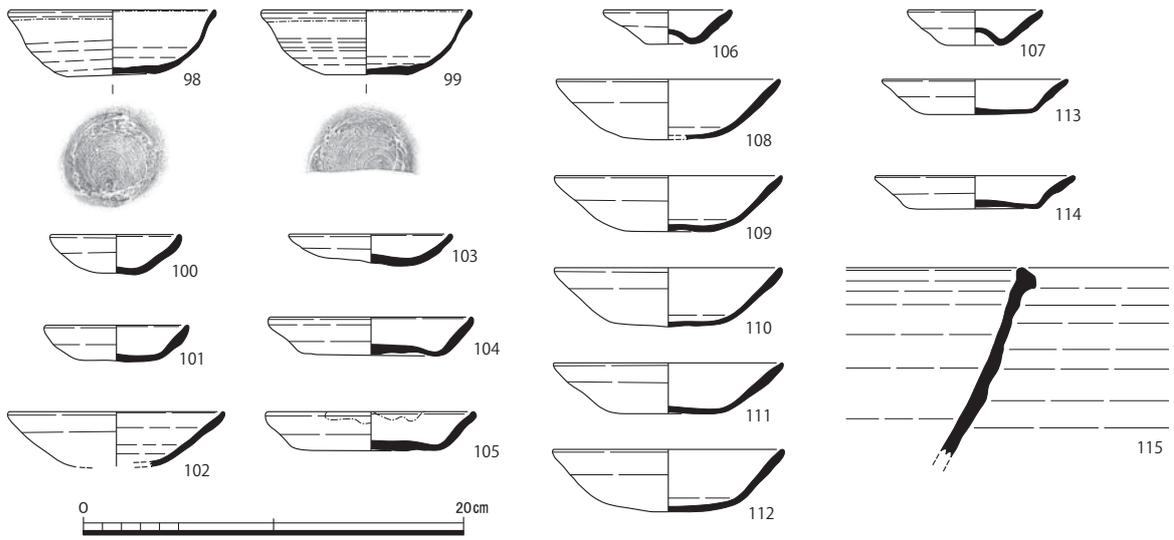
3~35:溝88
36:溝66

遺物実測図 1

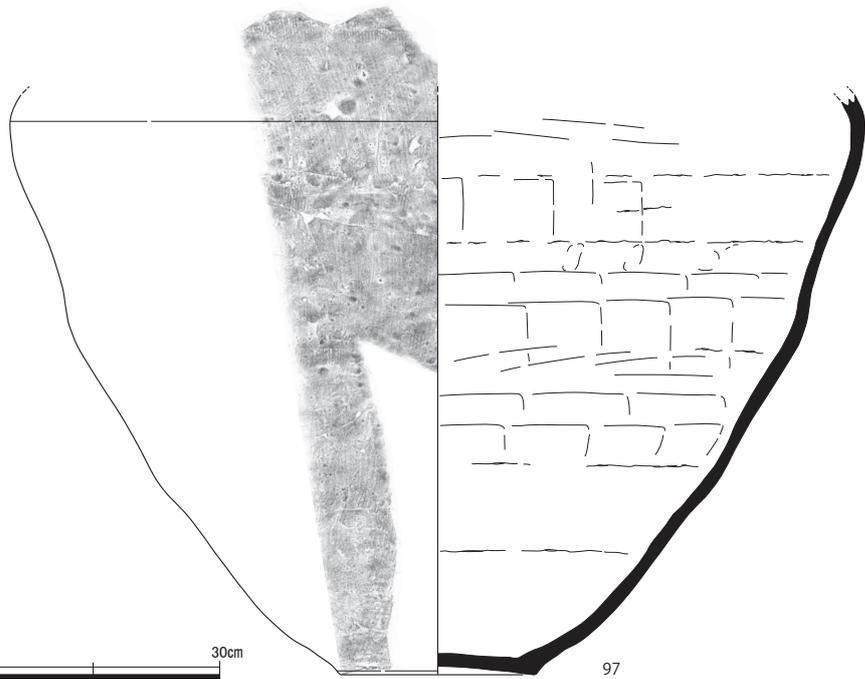
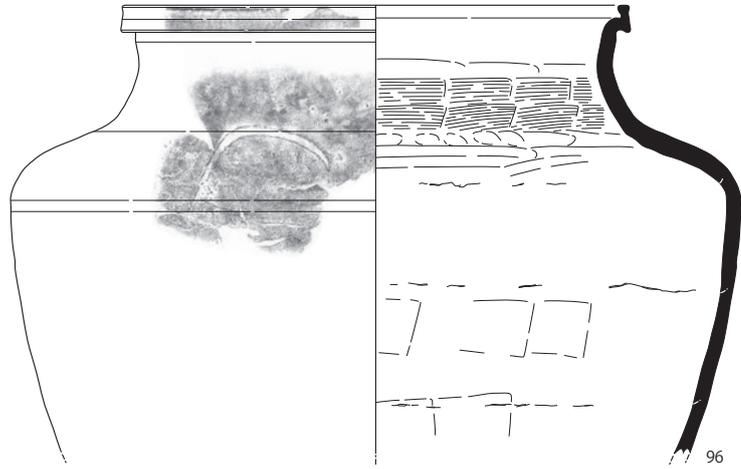
图版 2
遺物



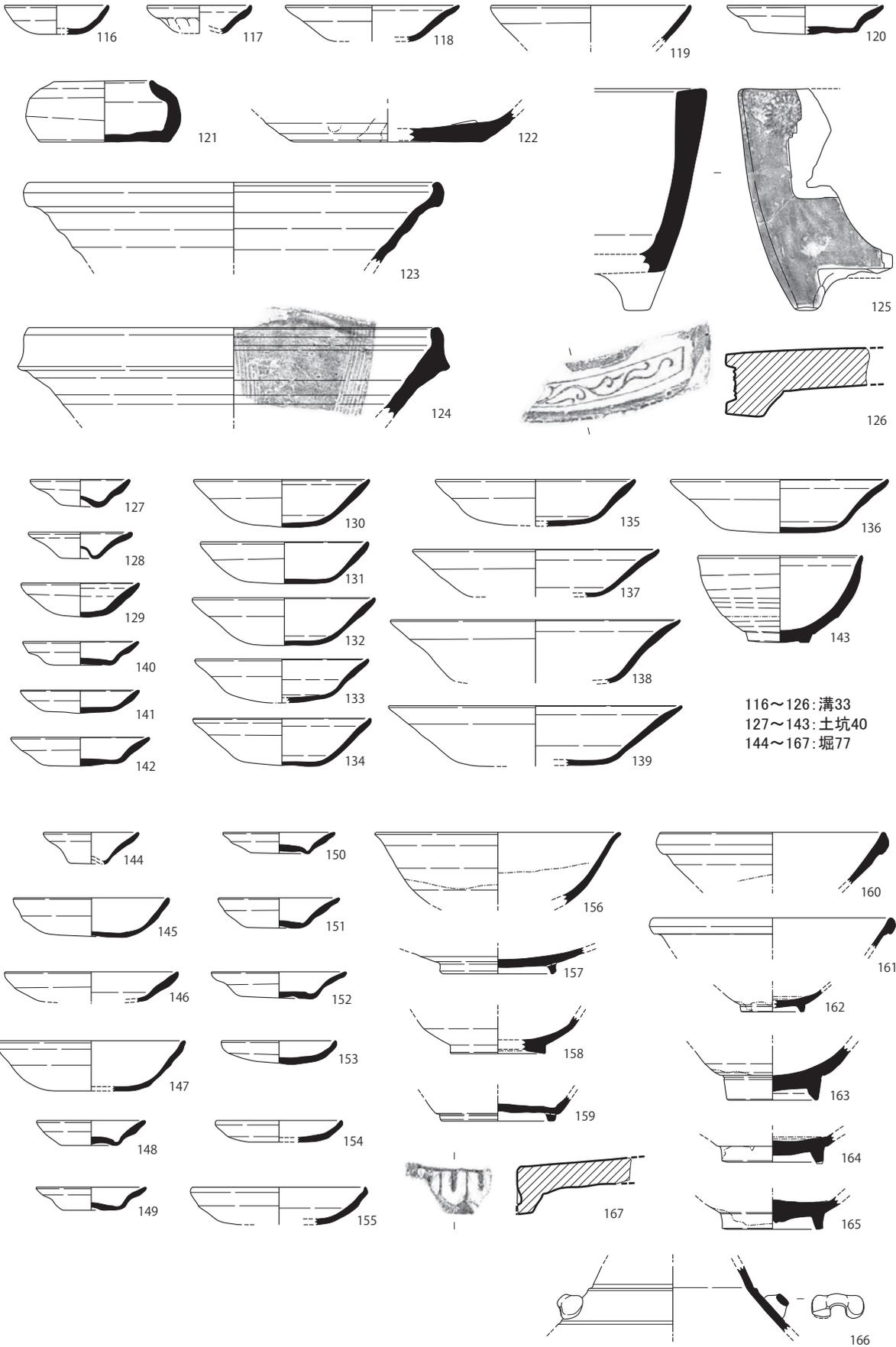
遺物実測図 2



96・97: 土坑34
98~105: 土坑67
106~115: 土坑36



図版
4
遺物

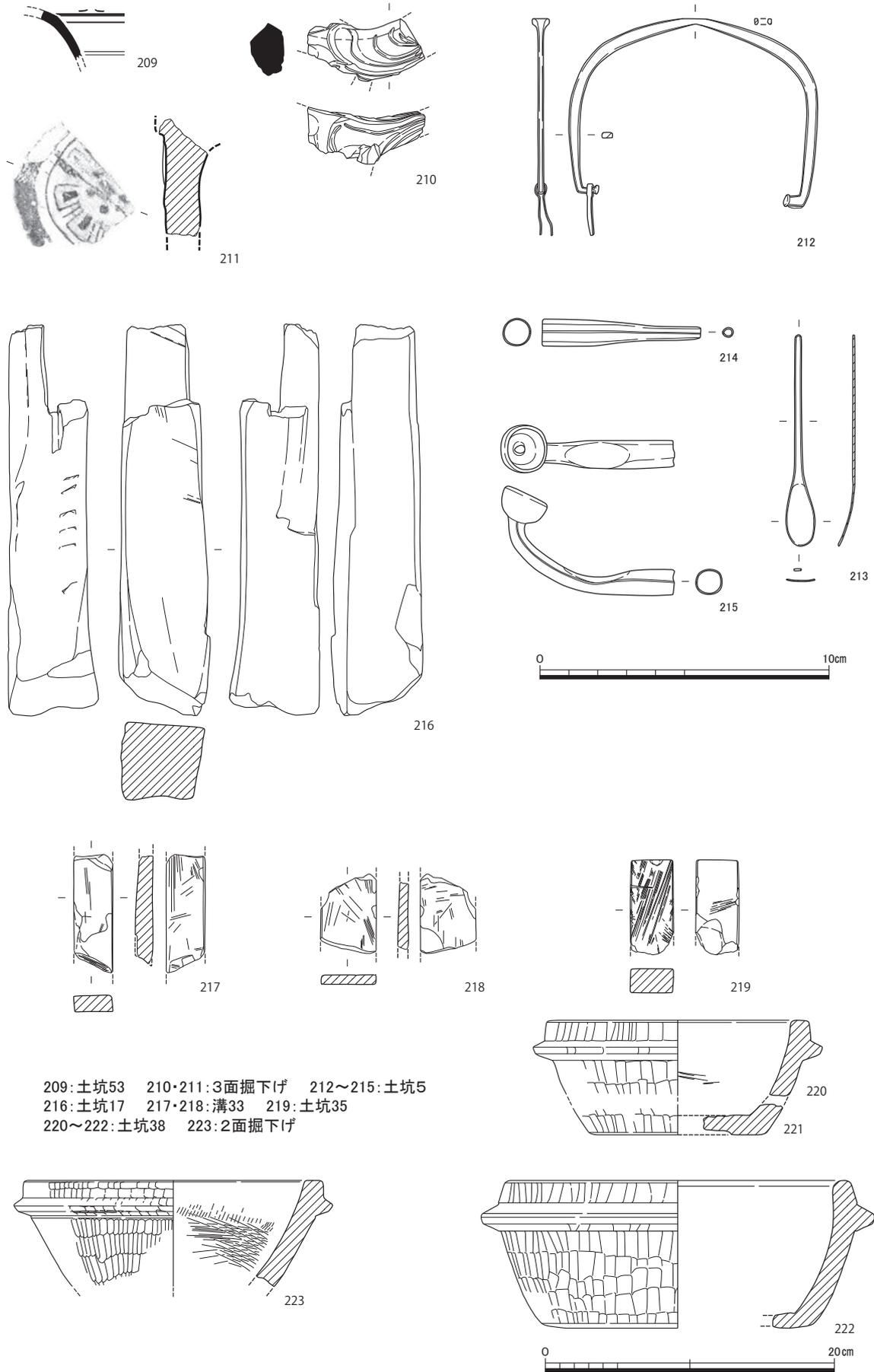


遺物実測図 4

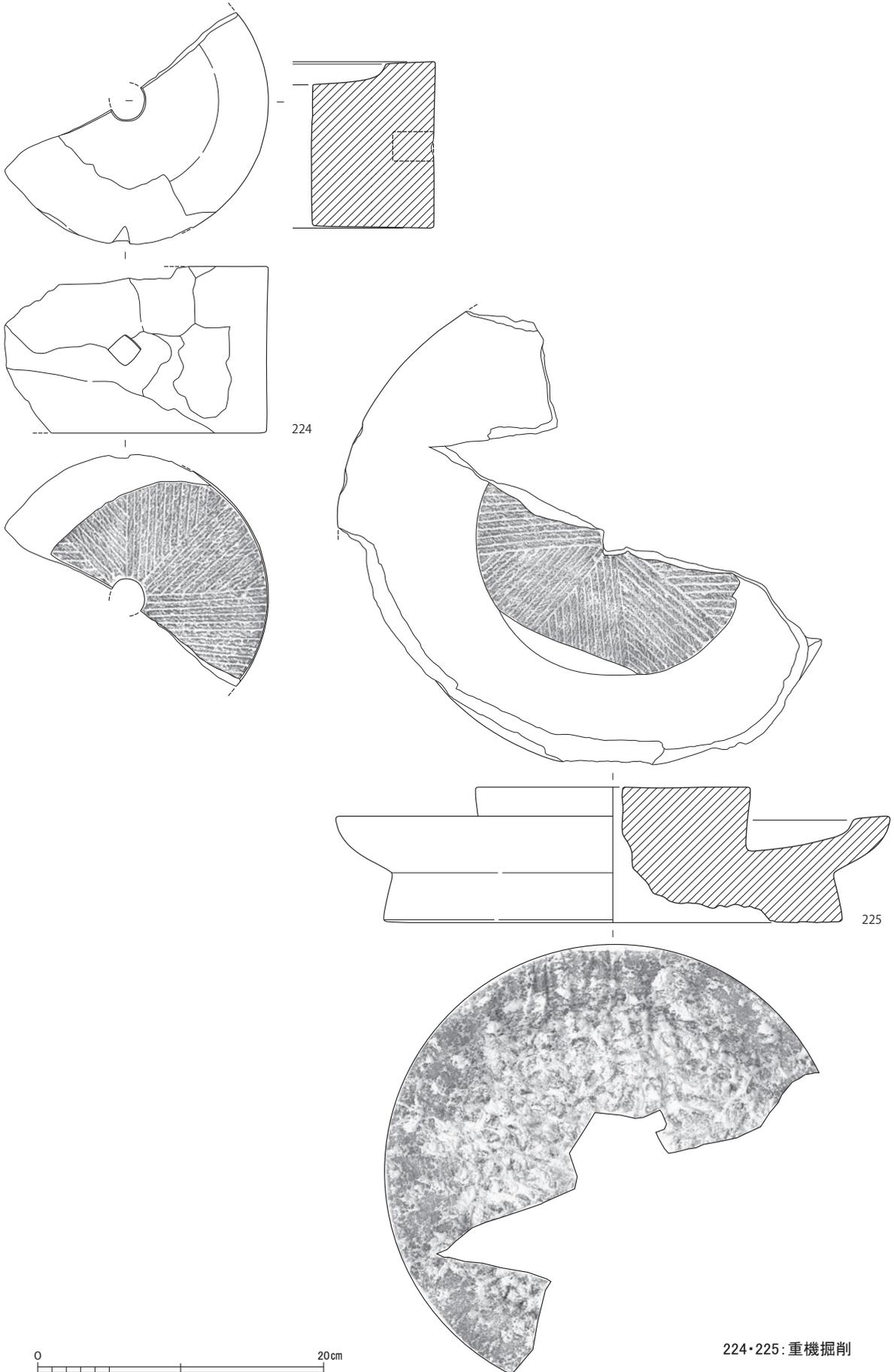


遺物実測図 5

図版 6
遺物



遺物実測図 6



0 20cm
遺物実測図 7

224・225: 重機掘削

図版 8
遺構



1. 1面全景（南から）



2. 1面空中写真（上が東）



1. 2面全景（南から）



2. 2面空中写真（上が東）



1. 井戸19 (北から)



2. 井戸19断面 (北から)



1. 溝33 (東から)



2. 土坑36 (北から)



1. 3面全景空中写真（上が東）



2. 掘77



1. 溝66 (西から)



2. 溝88 (北から)



1. 3面B全景（南から）



2. 調査地上空から因幡堂（上が北）



1. 溝88



2. 溝66



1. 溝66



2. 溝66



3. 溝66



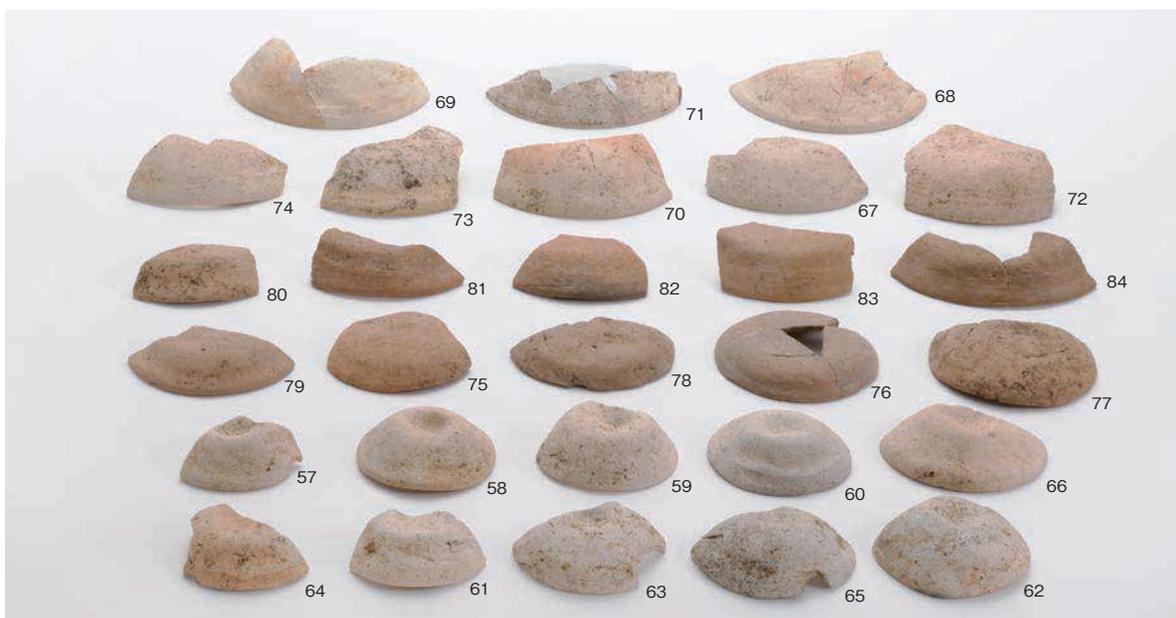
4. 土坑34



5. 土坑34



6. 土坑34



7. 土坑34



1. 土坑67



2. 堀77



1. 土坑36



2. 溝33



1. 土坑53



2. 3面掘下げ



3. 土坑38 (220～222)、2面掘下げ (223)

報告書抄録

ふりがな	へいあんきょうさきょうろくじょうさんぼうじゅうろくちょうあと・からすまあやのこうじいせきはくつちょうさほうこくしょ							
書名	平安京左京六条三坊十六町跡・烏丸綾小路遺跡発掘調査報告書							
シリーズ名	文化財サービス発掘調査報告書							
シリーズ番号	第13集							
編著者名	菅田 薫 野地ますみ							
編集機関	株式会社 文化財サービス							
所在地	〒612-8372 京都市伏見区北端町58							
発行所	株式会社 文化財サービス							
発行年月日	2020年12月28日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょうさきょうろくじょう 平安京左京六条 さんぼうじゅうろくちょう 三坊十六町 からすまあやのこうじいせき 烏丸綾小路遺跡	きょうとししもぎょうからすま 京都市下京区烏丸 どおりまつばらさが ごとじょう 通 松原下る五条 からすまちょう ほん ほか 烏丸町404番2他 ひつ 3筆	26100	1 712	35度 54分 00.5秒	135度 45分 26.4秒	2020年 8月17日 ～ 2020年 10月9日	180㎡	宿泊施設 建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
烏丸綾小路遺跡		古墳時代				土師器		<p>・平安時代中期の五条大路南側溝を想定位置で確認した。室町時代の五条大路南側溝も同位置でした。</p> <p>・室町時代の堀を検出した。これは下京惣構が五条までとみられていたが、五条以南にも構えの堀が展開することが明らかとなった。</p>
平安京跡	都城	平安時代		五条大路南側溝など		土師器・須恵器・黒色土器・白色土器・緑釉陶器・灰釉陶器・輸入陶磁器・瓦		
		室町時代		五条大路南側溝・堀・土坑・井戸など		土師器・須恵器・瓦器・瓦質土器・灰釉陶器・輸入陶磁器・施釉陶器・焼締陶器・瓦・石製品		
		江戸時代		土坑など		土師器・土製品・土師質土器、瓦質土器、施釉陶器、焼締陶器、染付、金属製品、石製品		

平安京左京六条三坊十六町跡 烏丸綾小路遺跡発掘調査報告書

発行日 2020年12月28日

株式会社 文化財サービス
編集 〒612-8372 京都市伏見区北端町58
TEL 075-611-5800

三星商事印刷株式会社
印刷 〒604-0093 京都市中京区新町通竹屋町下る
TEL 075-256-0961